

平成30年度

ウチナーンチュ子弟等留学生修了報告書

沖縄県

はじめに

ウチナーンチュ子弟等留学生受入事業は、海外に在住する沖縄県出身移住者子弟や本県と縁が深いアジア諸国等から優秀な人物を県内の大学や企業、伝統芸能修得機関等で修学・研修させ、沖縄の歴史・文化・習慣の理解や、企業での実務経験、県民との交流を通して、将来的に本県と出身国とのネットワークの架け橋になる人材を育成し、もって、双方の国際交流に寄与せしめることを目的としています。

昭和44年度（1969年）にボリビアからの留学生1名の受け入れから始まった本事業は、これまでに655名の留学生を受け入れてまいりました。

留学生は沖縄の歴史や文化の理解者として、帰国後、それぞれの地で本県との架け橋となり活躍しています。

平成30年度は、ブラジル3名、ペルー2名、アルゼンチン2名、ボリビア1名、中国（福建省）1名、台湾3名の合計12名を受入れました。

この報告書は、留学生が沖縄滞在中に感じた日本・沖縄に対する率直な意見や感想、大学や研修先での修業成果等をまとめたものです。様々な経験を経て成長していく姿を見ていただき、本事業理解の一助となれば幸いです。

また、沖縄県では、10月30日を「世界のウチナーンチュの日」と制定し、世界に広がるウチナーネットワークの継承・発展・強化を目指して、様々な事業に取り組んでおり、毎年この日を中心に世界各地でも関連する取組が行われることが期待されています。帰国後は、留学生がこのネットワークの中心となって、一層活躍していくことを切に願っております。

最後に、本事業実施にあたり、留学生を受け入れていただきました、琉球大学、沖縄国際大学、沖縄県立芸術大学、国際言語文化センター、松本料理学院、やふそ紅型工房、沖縄三線事業協同組合、ムーンホテルズアンドリゾート株式会社、並びに関係者の方々に対し、心から感謝申し上げます。

平成31年3月

沖縄県文化観光スポーツ部長
嘉手苺 孝夫

目 次

○ウチナーンチュ子弟等留学生（12名）

- **Ciclo サイクル**
高良 ダイアナ ノハナ（ブラジル）・・・・・・・・・・ 11
- **1年間の思い出**
比嘉 比嘉 ソフィア（ペルー）・・・・・・・・・・ 15
- **私は幸せものだ**
田辺 ルシア コレル（アルゼンチン）・・・・・・・・・・ 19
- **我したウチナーワッター島ぬシンカヌチャー**
村田 上江洲 奈美恵 エリカ（ペルー）・・・・・・・・・・ 23
- **ウチナータイムで豊かな毎日**
李 虹縹（台湾）・・・・・・・・・・ 27
- **沖縄、私の人生の一章！**
新里 マルコス アキラ（ブラジル）・・・・・・・・・・ 31
- **かけがえのない思い出**
屋良 弘美（ボリビア）・・・・・・・・・・ 34
- **ウチナーンチュが教えてくれたこと**
何 芸嬌（中国）・・・・・・・・・・ 38
- **夢を叶えてくれた沖縄**
陳 慧安（台湾）・・・・・・・・・・ 42
- **三線が繋げてくれた世界**
蔡 其澄（台湾）・・・・・・・・・・ 47
- **イチャリバチヨーデーの経験**
照屋 ブルノ ヒトシ（ブラジル）・・・・・・・・・・ 53
- **出会いの一年**
赤嶺 イヅミ マリエル ロレナ（アルゼンチン）・・・・・・・・・・ 57



平成 30 年度ウチナンチュ子弟等留学生 修了式 平成 30 年 3 月 13 日 於：市町村自治会館

ウチナンチュ子弟等留学生受入事業概要

【目的】

この事業は、沖縄県出身移住者子弟及びアジア諸国等から優秀な人物を選抜し、県内の大学や企業、伝統芸能修得機関で就学・研修させ、沖縄の歴史・文化・習慣の理解や、県内企業での実務経験、県民との交流を深め、将来的に本県と出身国とのネットワークの架け橋になる人材を育成し、もって、本県との国際交流に寄与せしめることを目的とする。

【事業のあゆみ】

1900年、本県から世界各国への海外移住が始まって以降、その移住者たちは各国で県人会などの独自のコミュニティーを作り活動している。そういった海外移住者の子弟を対象とし、沖縄県が昭和44年に海外留学生受入事業を開始、ポリビアからの県系人子弟留学生を受入れて以来、「アジア諸国等留学生」等を含め、これまでに15カ国1地域からのべ655人を受け入れている。

【事業内容】

本事業では、留学生は「科目等履修生コース」または「伝統芸能修得コース」にて就学・研修を行う。

① 科目等履修生コース

A: 日本語＋科目選択 (1年)	県内の各大学で科目等履修生として就学します。
B: 日本語＋科目選択＋企業等研修 (6ヶ月) (6ヶ月)	科目履修修了後、実際に県内の企業に入って研修します。

② 伝統芸能修得コース

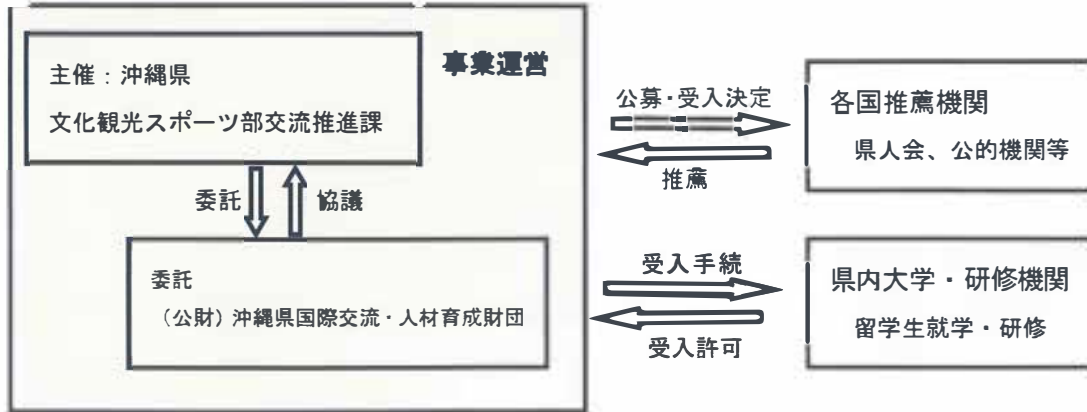
日本語学校＋伝統芸能・工芸研修 (3ヶ月) (9ヶ月)	県内の日本語学校で3ヶ月学んだ後、伝統芸能を教えている各学校・教室・施設で9ヶ月間技術研修を実施します。 ※日本語学校は研修生の語学力により判断します。
紅型、三線製作、琉球料理(沖縄料理)、太鼓製作等	

【運営体制】

沖縄県からの委託をうけて、(公財)沖縄県国際交流・人材育成財団(以下「財団」。)が沖縄県と連携しながら当事業を実施した。

留学生の選考・決定については、財団が各国の推薦機関へ留学生を公募し、推薦のあった候補者から県と協議のうえ決定した。

受入が決定した後、各々の大学や研修機関へ出願、受入許可を得て就学・研修を行った。



【本年度の主な取り組み】

4月初旬	ウチナーンチュ子弟等留学生来沖、 修学/研修、沖縄での生活の準備	
4月13日	研修① 留学の目標設定	財団
4月25日	沖縄県副知事表敬 研修② 沖縄県の施策説明	沖縄県庁
6月18日～21日	ネットワークパネル展示	沖縄県庁
6月23日	研修③ 平和学習研修	平和祈念公園
8月10日	研修④ 歴史学習研修	県立博物館
9月3日～5日	研修⑤ 伊江島民泊研修	伊江島
11月16日	研修⑥ 文化体験研修	那覇市内各所
12月22日	研修⑦ 京都事前研修、研修⑧ 留学の振り返り	財団
2月12日～14日	研修⑨ 京都研修	京都市内各所
3月1日	研修⑩ 留学・研修報告会	JICA 沖縄センター
3月13日	ウチナーンチュ子弟等留学生 修了式・懇親会	市町村自治会館
3月中旬～下旬	留学生 帰国	

※この他、県内外で実施された交流・協力イベントに参加。

【プログラムの概要】

◆ 副知事表敬

【日程】平成 30 年4月25日 【場所】沖縄県庁

【目的】副知事を表敬し、1年間の留学生活における抱負を述べる。

【内容】富川副知事を表敬訪問し、各々の1年間の抱負を述べた。

副知事からは、1年間の留学・研修を、沖縄のよさを知りながら有意義な留学生生活を過ごして欲しいと激励の言葉をいただいた。



◆ ネットワークパネル展

【日程】平成 30 年6月18～21 日

【場所】沖縄県庁 1階エントランス

【目的】出身国・地域について広く県民に伝える。

【内容】6月18日の「海外移住の日」に合わせて毎年行われる「移民パネル展」のため、留学生が各々の国のパネルを作成した。

出身国ごとに工夫を凝らして作ったパネルは、4日間にわたり県庁に展示し、来庁者に海外移住者のこと、それぞれの出身国のことを紹介した。

◆ 通年研修(全 10 回)

(1) オリエンテーション及び留学の目標設定

【日程】平成30年4月13日 【場所】沖縄県国際交流・人材育成財団

【目的】留学期間中の目標や沖縄との親善の交流においてどのような役割を担いたいかを考える。

【内容】大学・研修機関についてのオリエンテーションを行い、それぞれの留学生活における注意点などを確認した。オリエンテーション後、他の留学生と意見交換をしながら具体的な目標を設定した。



(2) 沖縄県の施策説明、留学の目標設定

【日程】平成30年4月25日

【場所】沖縄県国際交流・人材育成財団

【目的】沖縄県の実施する国際交流事業や留学生に期待されていることを知る。

【内容】沖縄県が実施する国際交流事業や、ウチナーンチュ子弟等留学生に求められていることなどの説明をうけ、自分が沖縄にいることの意味、なすべきことを改めて認識した。



(3) 平和学習研修

【日程】平成30年6月23日(慰霊の日)

【場所】沖縄県平和祈念公園・資料館

【目的】沖縄戦の特徴や戦後の沖縄の様子を学ぶ。沖縄戦没者追悼式典への参列。

【内容】平和祈念資料館を見学し、沖縄全戦没者追悼式典に参列することで、沖縄戦について考えた。その後、平和記念資料館で学んだことや感じたことなどについてワークショップを通して意見交換を行った。戦後を生きる世代のそれぞれが、戦争を起こさないためには何をすべきか考える良い機会となった。



(4) 歴史学習研修

【日程】平成30年8月10日

【場所】沖縄県立博物館・美術館

【目的】沖縄県の歴史の概略を通し、現代の沖縄がどのように形作られたかを知ることで、本県の歴史・文化に理解を深める。

【内容】研修では講師に沖縄大学客員教授 新城俊昭先生をお招きし、中国等東南アジアの公益と、大規模移民・戦後から現在までの100年ほどの歴史・文化的な流れ・概要を説明頂き本県と留学生の出身地を含めた海外とのつながりやそれにいたる歴史的な流れを考えるワークショップを行った。その後、沖縄県立博物館・美術館の展示を見学し、琉球・沖縄を中心にさらには沖縄の自然史・考古・美術工芸・民族の中から各自興味のある分野を見学し理解を深めた。



(5) 伊江島民泊研修

【日程】平成30年9月3日～5日

【場所】伊江島(伊江村)

【目的】沖縄県民の生活を体験し、県民との交流を図り、沖縄の自然・文化に触れることで、帰国後、出身国と本県との架け橋となる人材としての素養を養う。出身国での沖縄文化の発信やオキナワのコミュニティの振興に寄与していくためのヒントを得る。

【内容】伊江島観光協会が実施する民泊事業を利用し、2泊3日の行程で民泊体験を行った。研修では島民との交流が多く設けられており、ピーナッツ農家を営む方のお宅ではピーナッツの殻をむく作業等を行った。畜産を営んでいるお宅では牛の世話をすることを実際に体験した。学生は島民の方々の方にホームステイ言葉や文化を超えて人と人との繋がりを感じることでできる研修を実施することができた。



(6) 文化体験研修

【日程】平成30年11月16日

【場所】那覇市内各所

【目的】本県の地域住民の生活や伝統的な文化について知り、体験することで理解を深める。

【内容】那覇市観光協会が実施する「那覇まちま〜い」を利用して、那覇市街をガイドとともに散策市、地域住民の生活や歴史について説明を受けた。戦前、戦後の歴史や街並みがどう変わったか等、写真や当時のエピソードなどをガイドの方が細かく聞くことができた。その後、那覇市伝統工芸館にて琉球漆器製作の加飾「堆錦」を体験し、琉球漆器のコスターを作成した。



(7) 留学の振り返り

【日程】平成30年12月22日 【場所】沖縄県国際交流・人材育成財団

【目的】1年間の留学・研修で得たものを確認・共有するとともに、帰国後それらをどのように活かすことができるかを考える。また、帰国後の活動について発表の場を設けた。

【内容】来沖時に設定した目標を思い出し、当時の自分の考えや自身の沖縄での活動の振り返りを行った。その後、設定した目標が達成できているか、またそれ以外にどのような経験があったかなど、留学・研修における成果と自身の変化について情報共有を行い、本国へ帰国してから留学で得た経験や知識をどのようにして広めるかなど、意見交換の場を設けた。

(8) 京都事前研修

【日程】平成30年12月22日 【場所】沖縄県国際交流・人材育成財団

【目的】京都研修を実施するにあたり、「京都はどのようなところか」について基礎知識を学ぶ。

【内容】京都の文化や歴史、成り立ちについて学んだ。そこから、今でも残る京都の文化や建造物について知り、実際に京都へ行った際に、自分の目で見て学ぶ事ができるよう、理解を深めた。

(9) 京都研修

【日程】平成31年2月12日～14日 【場所】京都市内

【目的】沖縄県だけでなく、日本の伝統的な歴史に触れ、本県独自の文化と日本本土の伝統文化を比較し双方の歴史・文化についてより深く理解・考察する。

【内容】京都では、事前研修で学んだことを参考にしながら、二条城、京都国際マンガミュージアム、三十三間堂や清水寺、嵐山、金閣寺、伏見稲荷大社などをガイドとともに観覧した。日本語でのガイドを聞きながらただ観光するだけでは知り得ない知識や発見、京都をはじめとする日本の歴史についても知識を深めることができた。



(10) 留学・研修報告会

【日程】平成31年3月1日

【場所】JICA 沖縄センター

【目的】県民に向けて1年間の留学・研修の成果を発表し抱負を語ることで、来場者へ国際交流や異文化について理解を深めていただく機会とする。また、自身の考えや経験を他者に伝えることを通して、帰国後のウチナーネットワークの担い手としての自覚を持つ。

【内容】1年間の留学・研修での経験やそれによって得た技能・知識などの発表をおこなった。大学生活や研修先での経験はもちろんのこと、その他に個人で行っていたサークル活動や三線の稽古など、留学生活のまとめを各自プレゼンテーション形式で発表を行った。学校や研修先だけでなく今回の留学で共に学んだ仲間への感謝を述べる場面も多くあり、来場者からは、「留学生の頑張りや経験を知ることができ大変うれしく思う」や「具体的な研修内容を聞くことができ勉強になった」などのコメントも多く寄せられた。



◆ 平成30年度ウチナーンチュ子弟等留学生修了式・懇親会

【日程】平成31年3月13日

【場所】沖縄県市町村自治会館

【内容】修了式では、沖縄県文化観光スポーツ部の嘉手苺部長から修了証書を受け取り、玉城県知事からの式辞をいただいた。留学生代表挨拶では照屋 ブルノ ヒトシ さんが「出身国はバラバラだが沖縄で私たちは兄弟になった。沖縄も第二のふるさとになった」と沖縄での研修や大学生活で出会った仲間への感謝や沖縄で出会った方々へ感謝を述べた。

<修了式>

- | | |
|---|-------------------------|
| 1 開式 | 5 来賓祝辞 |
| 2 留学生の紹介 留学生12名 | 琉球大学 学長 大城 肇 |
| 3 修了証書授与
沖縄県文化観光スポーツ部 部長 嘉手苺 孝夫 | (代読 琉球大学 理事・副学長 花城 梨枝子) |
| 4 式辞 沖縄県 知事 玉城 デニー
(代読 沖縄県文化観光スポーツ部 部長 嘉手苺 孝夫) | 6 留学生代表挨拶 照屋 ブルノ ヒトシ |
| | 7 閉式 |
| | 8 記念撮影 |



<懇親会>

- | | |
|--|------------------------|
| 1 開会 | 5 懇親 |
| 2 開会の挨拶
沖縄県国際交流・人材育成財団
理事長 玉城 哲也 | 6 留学生による余興 |
| 3 来賓祝辞
沖縄県立芸術大学 学長 比嘉 康春 | 1. かぎやで風 |
| 4 乾杯の音頭
沖縄国際大学 学長 前津 榮健 | 2. 歌三線(ていんさぐぬ花&安里屋ユンタ) |
| | 3. 歌(かりゆしの夜) |
| | 4. エイサー |
| | 7 フィナーレ |
| | 8 閉会 |



平成 30 年度ウチナンチュ子等留学生



高良 ダイアナ ノハナ

出身国/地域：ブラジル連邦共和国
沖縄県立芸術大学 美術工芸学部 科目等履修生



比嘉 比嘉 ソフィア

出身国/地域：ペルー共和国
沖縄県立芸術大学 美術工芸学部 科目等履修生



田辺 ルシア コレル

出身国/地域：アルゼンチン共和国
沖縄国際大学 科目等履修生



村田 上江洲 奈美恵 エリカ

出身国/地域：ペルー多民族国
沖縄国際大学 科目等履修生



李 虹緋

出身国/地域：台湾
琉球大学 共通教育科目 科目等履修生



新里 マルコス アキラ

出身国/地域：ブラジル連邦共和国
琉球大学 共通教育科目 科目等履修生





屋良 弘美

出身国/地域：ボリビア多民族国
琉球大学 共通教育科目 科目等履修生



何 芸嬌

出身国/地域：中華人民共和国
琉球大学 共通教育科目 科目等履修生



陳 慧安

出身国/地域：台湾
琉球大学 科目等履修生 /
企業研修 ホテルムーンビーチリゾート



蔡 其澄

出身国/地域：台湾
伝統芸能習得コース 三線製作
沖縄県三線製作事業協同組合



照屋 ブルノ ヒトシ

出身国/地域：ブラジル連邦共和国
伝統芸能習得コース 紅型製作
琉球紅型事業協同組合やふそ紅型工房



赤嶺 イズミ マリエル ロレナ

出身国/地域：アルゼンチン共和国
伝統芸能習得コース 琉球料理
松本料理学院



ciclo サイクル

高良 ダイアナ ノハナ (ブラジル)
沖縄県立芸術大学 美術工芸学部



私は高良ダイアナノハナです。ブラジル出身で、サンパウロ大学でデザインを勉強しています。絵を描くのが好きだし、物を創造することも好きなので、デザインの専門を選びました。

小さい頃からマンガとアニメが好きで、一番最初にはまったアニメはポケモンでした。「全部のポケモンを描けるようになりたいな～」と思ったので、絵を描き始めました。

成長するにつれ、色々なマンガとアニメを見ていくうちに、日本の文化に興味を持つようになりました。あの頃はブラジルではマンガが少なかったため、日本語で新しいマンガが読みたいと思って、日本語を勉強し始めました。

日本語を勉強しながら、日本の文化も学ぶことができました。でも子供の頃は、どちらが日本の文化、どちらが沖縄の文化なのかは全然考えませんでした。自分の中で、どちらの文化も同じだと思っていました。日系人の友達と喋っていた時、お互いの家族に同じ習慣があると気付いたとき、友達と一緒に笑いました。「やっぱり、日系人の家族は一緒だ。」と思いました。

沖縄は違う文化があるという事に、いつ頃から気付いたのか正確には覚えていません。少しずつ自分の家族と他の家族の違う習慣を見ながら、日本の文化と沖縄の文化に気付いていきました。葬式がある時、沖縄の音楽を聞いた時、食べる時、おばあちゃんと話す時、色々な経験は沖縄の文化でした。

大学の研究をしていた時に、日本語学校の知り合いが県費留学と言うプログラムについて教えてくれました。日本の文化が好きだし、日本語も上手になりたいし、自分の大学のプロジェクトは日本語について研究しているので、良い機会だと思いました。それに、おばあちゃんとおじいちゃんの故郷に住むことができるチャンスだったので、感動しました。

沖縄県立芸術大学へ入学がきまり、デザインを勉強している大学生として、美術に興味があり、芸術大学で勉強できることに、嬉しく思いました。

沖縄県立芸術大学で二年生と一緒に工芸を勉強しました。工芸の中に4つの美術があります。最初勉強した専門は染めで、次に、陶芸、織りと漆を勉強しました。

二学期は、自分で勉強したい専門を選ぶことができました。



4月から、染めの授業を始めました。作品の科目は「毎日使う道具」でした。自分選んだ道具はイヤリングです。宇宙飛行士の模様を作るのは楽しかったですが、作品を作り終わった時、描いたデザインはあまり良くないと思いました。模様バランスと色の組み合わせは難しかったです。

作品の名前は「宇宙引っ越し〜たい」です。「宇宙飛行士」と「引っ越し」をかけて、冗談を入れてみたけど、人々に私の狙いが届くか分かりません。

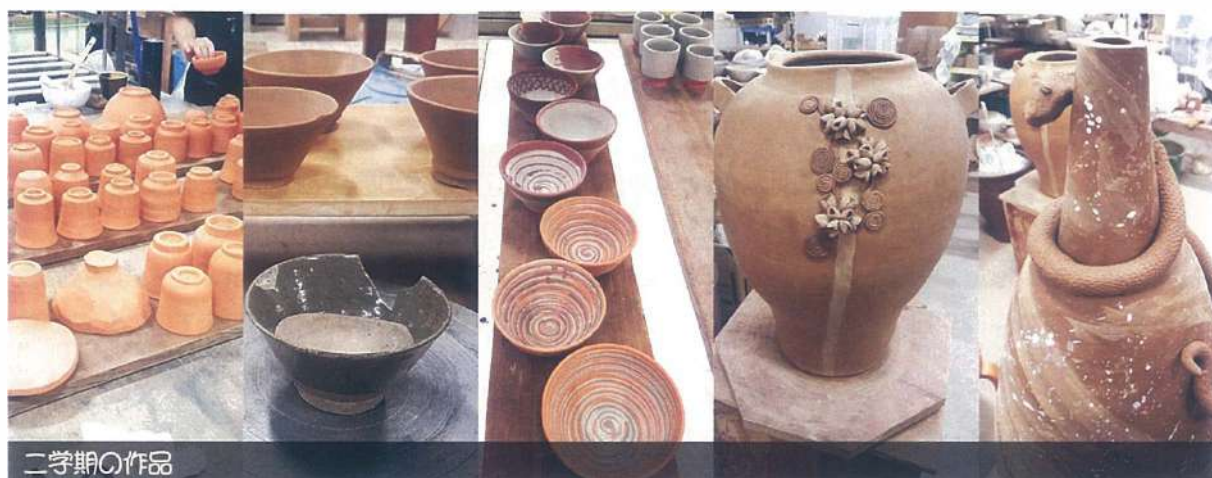
次に勉強した専門は陶芸でした。ローラーに模様を彫って、粘土で印を押して、好きな形を作りました。作ったローラーのテーマは風とポケモンでした。楽しいデザインを作りたいと思ったので、ピカチュウの模様を彫りました。

陶磁器を作る時は強さのコントロールが必要でしたので、最初は難しかったです。



6月に、織りの勉強を始めました。自分のオリジナルのキャラクターのデザインで作品を作りたいかったので、宇宙人の模様を織りました。宇宙人は地球の知識をもらっています。地球には色々な文化があって、色々な知識もあると思います。自分の中で、知識のイメージはカラフルで形が多いです。製織をしている時に一番難しい事は丸い形を作ることでした。

最後に勉強した専門は漆で、作品のテーマは「自然の中で美しい形」でした。作品のテーマを選んでいたら、どんな形が美しく、自然を表現できるかと考えました。インターネットで調べていたら、海星の写真を見つけました。形は面白くて、テクスチャーもきれいです。作品のタイトルは「Bom Dia」で、ポルトガル語で Bom Dia は「おはよう」です。タイトルは海星が朝の準備をしていることから取りました。工芸の中で漆が一番難しい美術だと思います。



二学期が始まったら、陶芸を勉強し始めました。インターネットで焼き物をしているビデオを見ながら、「これはすごい！ やってみたいな〜」と思ったので、県費留学生として、芸術大学で勉強できるいい機会でした。最初に勉強したことは電気ろくろの技法で、粘土の削り方と釉薬の使い方です。電気ろくろで最初習ったことはカップの作り方でした。カップを成形してから、究極の形を磨くために作品を削ります。たくさんのカップを制作してから、登り窯に入れて、学生たちや先生たちと一緒に作品を焼きました。

素焼きしたら、陶器類に薬をかけます。創造が見えないので、釉薬する時は難しいと思います。一学期に陶芸を勉強した時、白土を使いましたが、二学期は赤土を使いました。土が違うから釉薬も違います。初めて赤土の釉薬を見た時はびっくりしました。思ったイメージと違いました。

カップの成形の練習後、マカイの作り方を練習しました。自分の好きなマカイのデザインを選んで、選んだ形を真似する練習を始めました。その後に皿の作り方も学びました。

1月から壺を成形する練習をして、3つの作品を作りました。電気ろくろと違う経験で、本当に面白かったです。

沖縄県立芸術大学で色々な経験ができて嬉しいです。陶芸の授業中で琉球陶芸歴史の勉強がありました。全部を学ばなかったけど、内容がだいたい分かったと思うし、良い聴解の練習でした。他に面白かったことは印で、授業で自分の印を作りました。

先生や学生たちと一緒に那覇市立壺屋陶藝博物館とかやちむんの里へも行き、楽しかったです。



工芸の学生たち



芸大の留学生たち

一年間、大学の留学生とよく喋りました。日本語の授業で一緒に勉強して、色々な活動もしました。国際交流会をしたり、カラオケや展示会へ行ったり、旅行もしたり、たくさんコミュニケーションができたので嬉しいです。芸大の先生方も、助手も、学生たちも優しく教えてくれたし、話しをしたりして、心から感謝しています。

留学中様々な経験ができました。財団のおかげで沖縄史を学べて、日本の歴史と比べるようになりました。歴史の勉強だけじゃなくて、沖縄の文化を深く知り、生活でき、家族のルーツも知ることができました。

この一年間で平和記念公園、伊江島、京都などに行き、歴史講座や文化体験もできたし、色々な活動があったので、少しずつ沖縄や日本に関する知識は多くなっていると思っています。一人で沖縄に来ていたら、この経験はできませんでした。



家族



沖縄に友達もできたので、楽しい時間を過ごしました。一緒に食事をしたり、映画を見たり、練習したりして、一人だとそんなにたくさんの活動をするのは無理だと思います。

友達のおかげで恩納村のハーリーに参加したし、一万人のエイサー踊り隊や、伊平屋島のマラソン、ダイビング、様々なイベントにも参加できたし、色々なことを経験できました。沖縄に住んでいる家族もいつもそばにいて安心しました。そして、一緒に遊びに行ってくれて嬉しかったです。沖縄ワールドや、国頭村、ボウリングへも行きました。

将来の道を考えてはまだ緊張しますが、一年間の経験は自分に自信を与え、今、したいことが見えてきました。沖縄での留学生活は終わりますが、新しい人生はもう始まっています。

1年間の思い出

比嘉 比嘉 ソフィア (ペルー)
沖縄県立芸術大学 美術工芸学部

私は比嘉ソフィアです。ペルー生まれ、日系ウチナーンチュ3世です。ルーツは名護市です。ペルーで勉強した専門はグラフィックデザインでした。私は沖縄の工芸と美術に興味があったので、沖縄県立芸術大学で勉強したいと思いました。沖縄に来ることは初めてでした。

沖縄に着いてから、人の暖かさを感じました。空港で私の沖縄の家族に初めて出会いました。家族と最初の3日間を過ごしました。一緒に水族館やレストランへ行きました。

この1年間、沖縄の工芸を勉強しました。沖縄の歴史や文化を学びました。たくさんの美味しい物を食べました。新しい友達を作りました。昔の友達に会いました。本当に素敵な1年間でした。



沖縄県立芸術大学

大学の午前の授業は日本語でした。私は沖縄に来る前に、あまり日本語を喋れなかったのですが、日本語の先生達のおかげで、私の日本語は少し上手になりました。1学期の午後の授業は工芸でした。



4月は染めを勉強しました。私はペルーで紅型を見たら「あ、綺麗ですね！」と思いました。沖縄で染めを勉強できたことがとても嬉しかったです。授業のテーマは日常生活で使う道具でした。私は毎日使うブレスレットを選びました。作品名は「ラッキクローバー」です。



5月は陶芸でした。私はデザイン2つを作りました。1つ目のテーマは花、2つ目は宇宙でした。そして、デザインを決めて、お皿とカップを作りました。陶芸はちょっと難しかったけど、授業はとても楽しかったです。

6月は織でした。私の作品名は「アンデスの宝物」です。ペルーのアンデスで織物は有名なので、アルパカを作りました。この授業はとても楽しかったです。難しいことはたくさんありましたが、私は織を好きになりました。

7月は漆でした。漆は私にとって1番難しい授業でした。作品のテーマは自然の中に美しい形でした。私の選んだモチーフは

木の根でした。私は最初、漆の仕組みが分からなかったけど、少しずつ漆のことを学びました。本当にすてきな授業でした。

各授業の最終日、発表会がありました。初めての発表会の時、私はすごく緊張しました。でも、先生達とクラスメートは本当に優しく安心しました。先生達はいつも簡単な言葉を使います。本当に感謝しています。

2学期、専門の授業で織を選びました。10月から1月まで糸を染め、着物を織り、着付けを学びました。私は沖縄に来る前に織物のことを知らなかったですが、1学期に織を勉強して織を好きになりました。

10月は染色実験をしました。2週間ぐらい糸を染めました。そして、蝶々を作り、全部フォルダーに入れました。この実験は色サンプルのフォルダーを作るためのものです。

11月、着物を作り始めました。デザインを描いて、1つのデザインを選び、そして、縦糸の染色を始めます。それから織機の準備をします。

12月に横糸の染色をしました。1ヶ月ぐらい織って、1月に着尺を終わりました。着尺の長さは13メートルぐらいです。

そして、3月3日大学で織・着物ファッションショーに参加しました。自分の作った着物を着ました。着物の帯はちょっと苦しかったです。ファッションショーの時、私はすごく緊張したけど、素晴らしい経験でした。



研修

県費留学生として、たくさんの研修をしました。

移民の日のために、皆はエイサーと三線の発表をしました。慰霊の日には、平和記念公園へ行き、沖縄戦のことを学びました。8月、歴史講座もしました。沖縄県立博物館で歴史の先生は琉球史を教えてくださいました。9月、伊江島で3日間を過ごしました。内間家で民泊をし、家族の仕事を経験しました。11月、文化体験研修では、平和通りを歩きながら、歴史を学びました。その後、漆体験でコースターを作りました。最後の研修は、今年2月に京都へ行きました。京都と沖縄の歴史を比べました。

研修のおかげで、たくさんの新しいことを学ぶことができました。



イベント

この1年間たくさんのイベントに参加しました。たくさんの新しい場所を見に行きました。

「私は沖縄でエイサーをやりたい!」と思いました。2ヶ月ぐらい練習し、8月の一万人エイサー踊り隊で3つの曲を踊りました。その日太陽は強かったけど、良い経験でした。

友達のおかげで、恩納村ハーリーにも参加しました。そして、ハーリーの後、喜納昌吉さんのライブを見ました。

歴史関係のイベントもありました。金武町で移民のイベントに参加しました。参加した人達と一緒にゲームをしました。そして町を歩きながら、移民歴史について学びました。

10月、ウチナンチュ学生サミットに参加し、名桜大学で3日間を過ごしました。他の市町村の研修生と名桜大学の学生達に出会いました。たくさんの新しい友達を作りました。最終日、ペルーの移民について発表しました。そして、平和のことも学びました。対馬丸記念館とひめゆり平和祈念資料館へ行きました。



この1年間とても早く感じました。初めての一人暮らしだったので、たくさん大変なことがありました。でも、家族や友達のおかげで、この1年間はとても楽しかったです。お世話になりました。

沖縄県の皆さん、財団の皆さん、ペルー沖縄県人会、私にこの機会を与えてくれて本当にありがとうございました。沖縄県立芸術大学の先生方と友達、今まで色々なことを手伝ってくれて、ありがとうございました。皆さんはとても優しいです。沖縄の家族も、暖かく出迎えてくれてありがとうございました。

最後に、県費留学生の皆さん、あなた達のおかげでこの1年間はとても楽しかったです。私達は友達だけではなく、家族です。距離は関係ありません。これからも私達は繋がっています。



良い思い出ばかりで、この1年間で忘れられません。本当に心から感謝しています。

皆さんにまた会えるのを楽しみにしています。

私は幸せものだ

田辺ルシア（アルゼンチン）

沖縄国際大学



県費留学生として、沖縄に留学した理由は二つあった。一つ目の理由は、私の祖父母の出身地沖縄とその文化に興味があり、それらに直接触れて学びたかったからだ。二つ目の理由は、日本語が上手になりたかったからだ。アルゼンチンでは、日本語をあまり使わないので、練習ができなかったし、大部分を忘れてしまっていた。したがって、沖縄国際大学で日本語を勉強することを決めたのである。

沖縄国際大学（沖国）

沖縄国際大学ほど、素晴らしい大学はないと思う。先生たちのおかげで、私は日本語がさらに上手になった。先生たちが私にゆっくり説明し、いつも手伝ってくれて、応援してくれた。前期、日本語の初級クラスを取り、後期、日本語の中級クラスを取ることを決めた。

日本語の授業の中で、「日本事情」、「日本語会話・聴解」、「日本語作文」、「日本語文法」があった。「日本事情」の授業で、沖縄と日本の文化について勉強した。シーサーを作ったり、弓道を体験したりした。それに、日本の教育と政治について学び、日本と沖縄の知識が広がって行った。



「日本語会話・聴解」の授業は、あるテーマについてディスカッションをしたり、敬語を勉強したりした。先生たちがスピーチや面接などの時の話し方の大切さを教えてくれた。この授業と先生たちのサポートのおかげで、私は沖縄国際大学の日本語のスピーチコンテストの中級レベルの部で優勝することができた。

「日本語文法」の授業のおかげで、日本語能力試験 N 3 に合格することができた。「日本語作文」の授業は、オノマトペを勉強し、短文を作成したり、作文を書いたりした。この授業は、財団の報告書を書くために、大変役に立った。

日本語を勉強するだけでなく、前期には、書道のクラスも取った。書道の先生の話し方は私にとって早いので、分りにくかったが、とにかく書道が好きになってきた。



それから、琉球舞踊のサークルにも参加した。サークルで琉球舞踊を踊り、初めて舞台に出た。「マミドーマ」や「貫花・南嶽節」などの踊りを学ぶことができた。サークルで、沖縄の伝統的な踊りを学んだだけでなく、素晴らしい人たちにも会えた。

私の保証人はスペイン語の先生として沖で働いているので、前期、私はそのクラスに手伝いに行った。日本人の学生たちのスペイン語をサポートできて、大変いい経験になった。

困っていた時、また分からないことがあった時、沖縄国際大学のグローバル教育支援センターのスタッフの皆さんがいつも手伝ってくれた。また、グローバル教育支援センターから紹介され、色々なイベントやフィールドトリップなどに参加した。歓迎会、比地大滝、美ら海水族館、オリオンハッピーパークや、名護の桜祭りなどである。グローバル教育支援センターのおかげで、沖縄の観光地に行けたことはもちろん、他の留学生と日本人学生と集まる機会もあった。

[沖縄国際大学には本当にお世話になった。]

沖縄の文化・観光・イベント

沖縄に来て、沖縄文化を体験しながら、さまざまな沖縄のことについて学びたかった。そこで、沖縄の工芸を学ぶために、シーサーを作ったり、漆をやってみたりした。沖縄の伝統的な踊りというと、琉球舞踊とエイサーが頭に浮かぶ。一万人のエイサーページェントに参加したり、琉球舞踊と琉球古典のプレゼンテーションを見に行ったりした。しかし何よりも、沖縄国際大学の琉球舞踊サークルで舞踊を学べたことは忘れられない思い出である。また、沖縄の食文化といたら、沖縄そばが有名なので、松本料理学校で行われた沖縄そば作り体験に参加することができた。麺から沖縄そばを作ることにより、美味しさは倍増だった。

さまざまな沖縄の有名な観光地へ行った。首里城、斎場御嶽、金武町、渡嘉敷島、美ら海水族館、玉泉洞 - おきなわワールド、那覇の国際通りやひめゆり平和祈念資料館などである。

沖縄の色々な恒例のイベントに参加することは沖縄の文化を学ぶ方法だと思う。

6月、恩納村のハーリーに初めて参加した。

10月には有名な那覇大綱引きを見に行き、綱を引き、お土産として、綱の一部を持って帰った。

また、年に一回のイベントである、世界のウチナーンチュ大会が10月に行われた。名桜大学のサミットは、沖縄にいる研修生、県費留学生、名桜大学生と留学生が集まり、交流を通して、世界のウチナーンチュとも繋がりを作るためには大変良い機会のイベントである。

2月には、名護と本部のお花見に行った。



財団・沖縄県庁の研修



沖縄県庁

副知事表敬のために、沖縄県庁へ行き、本庁舎を案内していただき、そして偉い方々との懇親会に参加した。

沖縄県平和祈念公園

慰霊の日だったので、沖縄平和祈念公園へ行った。そこで、住民の沖縄戦の証言を読むことができた。平和について意識することができたので、すべての日系人は沖縄県平和祈念資料館へ行かなければならないと思う。

沖縄県立博物館・美術館

歴史学習研修のために、沖縄県立博物館・美術館へ行った。歴史講座で色々なことを学んだ。それに、「家」での暮らしについて学んだ。普通、沖縄の家は南に向かって建てられている。私は建築家なので、昔の沖縄の家には大変興味深かった。

伊江島

9月、伊江島へ民泊研修に行った。研修の目的は、伊江島について学ぶことであった。民泊の人たちは伊江島の出身なので、伊江島についてよく知っていて、分りやすく教えてくれた。民泊の人たちの仕事を手伝うために、ピーナッツの皮を剥いた。

那覇文化研修・漆体験

那覇の知識を広げるために、ガイドと一緒に那覇市内を散歩した。コースの中に、平和通り、第一牧志公設市場や、えびす通りなどがあった。研修で、色々なことを初めて聞いた。それに、那覇てんぶす館で伝統工芸である。琉球漆器の堆錦作りを初めて体験した。

京都・県外研修

2月、沖縄県外研修のために、京都へ行った。研修の目的は、日本の伝統的な文化を体験しながら、学び、また、沖縄の文化と比べることができるようになることだ。二日間で、京都の有名な観光地へ行った。二条城、京都国際マンガミュージアム、三十三間堂、長楽寺、嵐山、清水寺、金閣寺や伏見稲荷大社などである。それに、茶道体験もした。二日間は短い期間だったが、京都の文化について学ぶことができた。

[沖縄に1年間留学する機会をいただいたので、財団の担当者と県庁の担当者には感謝の気持ちでいっぱい。]



保証人

私の保証人は又吉パトリシアと言う。私は沖縄に住んでいる親戚がないので、又吉さんのおかげで、沖縄にいくことができた。又吉さんは私のことを何も知らなかったのに、私の保証人になってくれたのだ。それに、沖縄に来た時、又吉さんが色々なアドバイスをしてくれ、お勧めをしてくれた。沖縄で生活しやすくなるように、手伝ってくれた。

又吉さんから紹介されて、沖縄に住んでいるアルゼンチン人に会った。

[又吉さんに心から感謝している。]

県費留学生



私にとって、県費留学生たちは兄弟のようである。沖縄で初めて会ったのに、すぐ仲良くなった。県費留学生と一緒に誕生日パーティー、忘年会や、クリスマスパーティーなどをした。彼らのおかげで、留学の経験がさらに楽しくなり、忘れられない思い出を作ることができた。

[これからも、永遠に「いちゃりばちよーでー」。]

.....

沖縄で一年間の中で一番気づいたことは
「私は幸せものだ」ということである。

これから、「ワンネー シケー ヌ ウチナンチュ ヤイベーン」
と言って歩いていこう。



我したウチナーワッター島ぬシンカヌチャー

村田 上江洲 奈美恵 エリカ (ペルー)

沖縄国際大学

私はペルーの日系 4 世です。2006 年の世界のウチナーンチュ大会に参加して、一瞬で沖縄に恋に落ちました。この旅がきっかけで沖縄に興味が湧きました。2010 年にウチナージュニアスタディーツアーに参加しました。その後、2016 年に中城村の研修生として沖縄に来ました。沖縄に来る度に沖縄への愛が大きくなりました。ですから、平成 30 年度のウチナーンチュ子弟等留学生受入事業に応募したいと思いました。一年間沖縄で生活しながらこの島の人と文化について学びたいと思いました。

沖縄国際大学

沖縄で日本語を勉強したいと思い、県費留学の制度を利用して沖縄国際大学に科目等履修生として入学しました。授業は日本事情、日本語会話・聴解、日本語文法、日本語作文でした。

日本語事情の授業では、日本と沖縄について勉強しました。日本の政治やアニメ、祭りなどについて学んだり、沖縄の食文化や方言について勉強をしたりしました。日本語会話・聴解では、社会的な問題についてディスカッションをしたり、敬語の練習をしたりしました。日本語作文の授業では、漢字の練習をしたり、短文を作成したりしました。一つ一つの科目は難しいところがありましたが、先生たちのサポートのおかげで日本語を上達させることができました。

沖縄に来る前は、漢字が読めず日本語の文法も苦手でした。ですが、今はこの報告書でたくさんの漢字を使っています。これは沖縄国際大学での 1 年間の勉強の成果だと思います。日本語はまだまだ能力不足なので帰国後も日本語の勉強を続けたいと思います。

私は以前から琉球舞踊について興味がありました。そこで、琉球芸能文学研究会に入り琉球舞踊を学びました。舞踊の練習をしながら八重山の言葉を覚えたり、沖縄の楽器の使い方を学んだりしました。踊りなどの練習をしていくなかで沖縄のことをたくさん知ることができました。踊りの動きは日常生活を表現します。踊りの中で、畑や漁師の仕事の辛さと楽しさを感じることができました。また、琉球芸能文学研究会のおかげでうるま市民劇場での「双葉踊り」というイベントに出演しました。このような大きい舞台に立つことができたことは、一生忘れない思い出です。



沖縄 NGO センター

この留学の機会を活かして、人として成長したいと思いました。そのためには、様々なイベントに参加し、たくさんの人と交流しなければなりません。沖縄 NGO センター（ONC）さんは私をインターン生として受け入れてくださり、そのおかげで私は様々な経験ができました。ONC のインターンシップではペルーの紹介をしたり、壺屋児童館で子供達と遊んだり、當山久三のふるさとしてある金武町でまち歩きをしたりしました。

沖縄県が主催している「ウチナージュニアスタディー」と「海邦養秀ネットワーク構築事業」の事前研修にも参加しました。ジュニアスタディーの事前研修でペルーの話をしたり、ルーツや移民などの説明をしたり、県内参加者とゆんたくしたりしました。海邦養秀ネットワーク構築事業の事前研修では、英会話の練習をしたり、海邦養秀がペルーに行われた時の話をしたり、受け入れた側としての経験を話したりしました。

10月の世界のウチナーンチュの日のイベントにも参加しました。中城村の「世界のナカグスクんちゆに会いに行こう」というイベントのため沖縄カルタを作りました。このカルタは沖縄だけじゃなくて、海外にある沖縄県人会についてのカードも作りました。イベントに参加した子どもたちに海外のウチナーンチュについて教えることができました。



インターン生としての一番大きい仕事は沖縄県立図書館で行われた「ゆんたくひんたく」というイベントでした。私は沖縄県民と交流をできる場所が欲しいと考えていました。この願いは、ONCのおかげでイベントという形で実現できました。イベント企画はすべてウチナーンチュ子弟等留学生の皆さんとしました。皆で展示パネルを作ったり、発表準備をしたりととてもいい経験でした。実際に多くの人と交流できてとてもよかったです。

平和学習、歴史・文化・県外研修

いつもサポートしてくれた沖縄県と財団は、沖縄の文化について深く知るために研修を企画してくれました。一番記憶に残っている研修は平和学習です。沖縄での留学を終え、帰国したら沖縄戦のことを教えたいと思いました。沖縄戦から学んだことで世界が平和になれると思いました。たとえ時間がかかってもこの思いを広げ、少しずつ沖縄の人が望んでいる世界を、私達ひとりひとりが実現すれば平和になれると思います。

歴史研修では、琉球王国が沖縄になるまでの歴史を教えてくださいました。そして博物館展示を見学しました。文化研修は平和通りでマチぐわー散策をしたり、伝統工芸体験をしたりしました。琉球漆器のコースターを作りました。私たちはうし面を切って、コースターに貼り付けました。

県外研修は京都へ行きました。三日間ウチナーから離れて、日本の文化を体験しました。京都でたくさんの神社とお寺を見学して、とても楽しかったです。

その他の活動

6月18日は移民の日です。この日に行うイベントでウチナンチュ子弟等留学生の皆さんとパフォーマンスをすることになりました。「安里屋ユンタ」をエイサーと三線と歌で披露しました。

7月28日はペルー共和国独立記念日です。沖縄ペルー協会は27日にイベントを開催しました。このイベントでソフィアさんとペルーの伝統踊りを披露しました。また、沖縄に住んでいるペルー人と市町村研修生との交流する機会でもありました。29日は沖縄市のコザミュージックタウンで行われたペルーフェスティバルに参加し、そこでもペルーの伝統踊りを披露しました。このイベントにはいろいろな所から人が来て、ペルーの文化や料理を体験できました。とても大きいイベントでした。



8月5日、年に一度行われる一万人エイサー祭りに参加できました。2か月間ほど練習して、3曲を披露しました。とても暑い日でしたがたくさんの人とエイサーを踊ってとても楽しかったです。

夏休み期間に浦添市で、小学校1年生から中学生までのガールズスカウトの子どもたちに、ペルーについて発表しました。ペルーの文化や観光名所などのプレゼンテーションを作り、県人会のことや自分のルーツ、移民などについても説明しました。

10月26日から28日まで名城大学で行われた学生サミットに参加しました。2泊3日のプログラムで、アイスブレイクからイベント本番までとても楽しかったです。WUSSでは世界のウチナンチュと友達になりました。WUSS以外は各市町村の研修生と会う機会がありませんでした。イベントの中でペルーの紹介をしたり、ウチナーぐちを覚えたり、みんなでダンスしたりしました。WUSSに参加したことで、「沖縄にルーツがあって、よかった」と強く思いました。



12月にENJOYプログラムのイベントに参加しました。約30名の県内高校生が外国人と交流するプログラムでした。「世界でのクリスマスの過ごし方」についてパネルがあって、私は4名の中の一人のパネリストでした。ペルーのクリスマスの過ごし方についてを話したり、または家族の伝統について話したりしました。



一年間沖縄で過ごして、いろいろなことを体験できてとてもよかったです。勉強やいろいろな活動だけじゃなくて、沖縄の北から南まで足を運ぶことができました。様々な行事にも参加することができました。那覇大綱引き祭りや沖縄のお盆などの行事に参加しました。

この旅は沖縄で出会った人のおかげでとても貴重で忘れられない思い出がたくさんできました。

沖縄県の皆様、そして沖縄県国際交流・人材育成財団の皆様に感謝を申し上げます。この機会を与えてくださり心から感謝しています。一年間ずっとサポートをしてくれてありがとうございました。

沖縄国際大学の先生方と沖縄NGOセンターの皆様にも感謝しています。ずっと応援してくれてありがとうございました。

そして、ずっと一緒に歩んできた11名のウチナンチュ子弟等留学生に心の底から感謝しています。このメンバーのおかげでここまでやってこられました。皆さんは家族のような存在です。これからもずっとこの絆は切れることはありません。

帰国しても沖縄での経験や出会いを忘れません。ペルーでも日本語の勉強と伝統芸能の練習を続けたいと思います。また、ペルーで沖縄の話がたくさんして、若い世代が沖縄に興味を持つためにいろいろなことを教えたいと思います。

私の島、沖縄、私たちはこの島の仲間！



ウチナータイムで豊かな毎日

李 虹緋 (台湾)
琉球大学

私は2018年4月から2019年2月まで、琉球大学で科目等履修生として日本語を勉強していました。主に日本語の文法、聴解、会話、読解、日本文学、作文、ビジネス日本語などの授業を取りました。ほとんどは、他の留学生と一緒に授業を受けましたが、文法の授業で、日本語教師を目指す日本人の学生さんたちと一緒に日本語の文法をディスカッションしながら勉強しました。なので、日本語の文法の勉強だけではなく、日本人は自分の言語に対してどのように理解しているかということについても学びました。



また、基本的な日本語の勉強だけではなく、沖縄の歴史や文化、日本の文化も勉強しました。この三つの授業には見学研修と体験研修があったので、見学と体験を通して地元の文化と歴史の魅力に直接触れることができました。沖縄の歴史という授業で、琉球大学のキャンパスから沖縄の色々なところへ見学しに行きました。授業の内容は旧石器時代の沖縄から近世琉球までの歴史と、沖縄戦から現在までについての歴史と社会的課題でした。見学先は嘉数高台公園と、対馬丸記念館、佐敷干潟、港川人遺跡、宜野湾市博物館、真志喜安座間原第一遺跡、埋蔵文化財センターでした。授業で、歴史のことのみならず、平和、基地、石油、観光、海の埋め立て、沖縄の特有の生き物と自然などの社会的課題について、クラスメートたちと一緒にディスカッションしたりして、今後の対策を考えたりしました。

沖縄の文化という授業で、色々なところにも見学に行きました。壺屋焼物博物館と、平和祈念資料館、エイサー会館、中村家住宅、琉大風樹館などに行きました。また、南風原かすり会館で、琉球かすり作りの過程を見学して、自分の琉球緋のコースターも作りました。与那原町立綱曳資料館で、与那原町の歴史と綱曳の文化も勉強したり、大綱に乗ったり、着物を体験してカチャーシーを踊ったりしました。授業で、シーサー作りの体験もしました。それは私の初めての陶芸体験でした。自分のシーサーに対するイメージをもとに、自分のシーサーをデザインして作りました。最後も綺麗に焼けて良い作品が出来上がりました。自分の作品を見て達成感を感じられただけではなく、いい陶芸体験の経験と大切な思い出も作りました。



そして、日本の文化という授業で、沖縄の文化と沖縄県外の日本の文化の差を勉強して、面白かったです。日本の伝統的な文化を勉強して、沖縄の文化と比べて、沖縄の文化についてもっと理解を深めることができました。日常生活から年中行事まで多様な文化を学んで、北谷浄水場と日本銀行へ見学に行きました。抹茶茶碗作りの陶芸体験もしました。それから、茶道体験の研修で、自分が作った抹茶碗でお抹茶をたてました。初めての茶道体験でした。茶道の先生のようにきれいに泡は立ちませんでしたが、丁寧に時を過ごして、貴重な体験でした。更に、授業でのグループディスカッションを通して、他の留学生の日本・沖縄の文化と歴史に対する意見を知ることができて、色々な国の人がどんな考え方を持っているかということが分かりました。また、意見交換すると同時に様々な国の文化に関することの勉強もできました。授業の時間が短かったが、私の視野が広がって、考え方や価値観も変わりました。それは、教科書から学ぶことはできないことでした。多くの沖縄が好きな外国人と一緒に勉強したり、交流したりするのはなかなかない機会なので、大切にしないといけないと思います。

私は授業の参加だけではなく、二つの学校のサークルに入りました。一つは、動物福祉サークル「LINK」でした。私は犬猫の里親会のボランティアを通して、動物が好きな日本人の学生さんや、里親会のメンバーたちと、沖縄の捨て犬猫の状況について学びました。

そして、もう一つのサークルは中国語サークルでした。中国語を勉強している日本人と一緒にゲームをしながら、簡単な中国語を教えました。中国語スピーチ大会に出る日本人の手伝いもして、講演の原稿の内容と中国語の発音を一緒に練習しました。



私は全国大学生協連の平和と社会的課題委員会「Peace Now! Okinawa 実行委員会」が行った平和研修の「ちよこつツアー」に参加しました。首里城と、国際通り、糸数アブチラガマ、嘉数高台で沖縄戦の歴史について勉強しました。琉大の学生さんたちが沖縄のことを一生懸命に勉強したり、恒久平和を願い、祈ったり、平和の理念を世界に広めたりする、その頑張っている姿を見て、私はものすごく感動しました。沖縄のために努力している若い人たちと交流することができて、本当にありがたかったです。とても素晴らしい思い出でした。

更に、私は琉球大学が行った久米島での三泊四日の民泊研修に参加しました。研修で、久米島高校での交流会に参加しました。私は「沖縄と台湾、こんなに似ている！？」というテーマで台湾のことを紹介しました。たくさんの日本人の高校生の前で講演することが初めてだったので、とても緊張していました。終わった後に、日本人の学生に質問を聞かれたりして、意見交換したりして、とても楽しくていい経験でした。また、民家さんは私を色々なところへ連れて行ってくれたり、久米島の文化と歴史も教えてくれたり、三線と舞踊と織物の体験もさせてくれたりしました。久米島でたくさんの人と繋がることができ、大変勉強になりました。そして、久米島で受け入れていただいた民家さんからの紹介で、私は琉球台湾婦人会の会長さんと知り合いました。民家さんと会長さんの誘いで、琉球台湾国際交流会に参加しました。私



は交流会にいらしゃった沖縄人と台湾人に、台湾のいい所と沖縄のいい所を紹介したりして会話しました。

また、私は県費留学生の皆さんと一緒に、慰霊の日の平和研修、琉球の歴史学習、伊江島民泊研修、文化体験研修、京都研修に参加しました。慰霊の日に、沖縄戦全戦没者追悼式典に参加して、国籍を問わず、皆さんと一緒に黙祷して恒久平和を願い、祈りました。私は戦争の怖さを見て、平和の重要性和「命どぅ宝」という言葉の意味が分かりました。また、歴史学習の研修で、歴史学習講座を聞いたり、沖縄県立博物館を見学したりして、琉球王国ができてから現代までの歴史の流れについて勉強しました。なぜ中国と日本に近い沖縄には特別な文化があるのかということも理解しました。琉球王国の華やかなりし姿の再現を見ました。更に、伊江島民泊研修では、海洋研修と農作業の体験をしました。伊江島の自然や文化、地元の人々の生活を学ぶことができ、島の人と交流したり、地元の生活に馴染んだりしました。民家さんとの交流を通して、私は人々との縁と心の繋がりを大事にしたいと自分の出身地を大切に愛するという気持ちも強くなりました。そして、文化体験研修で、那覇市の国際通りへ見学しに行きました。てんぶす那覇から、平和通りや第一牧志公設市場などの商店街についての説明を聞きながら散策しました。ガイドさんは古い写真を使って、歴史や沖縄人の当時の生活文化を易しく説明してくださいました。散策の後に、伝統工芸「琉球漆器の堆錦」も体験しました。琉球漆器に興味を持つようになりました。最後に、京都研修では、沖縄と全然違う雰囲気を感じ、色々な世界文化遺産を見学しに行きました。お寺のお勤めも参加して、初めて仏前でお経を日本語で読みました。「和敬清寂」と「一期一会」の精神を学んで、茶道体験もしました。京都で日本伝統的な文化と歴史について勉強でき、沖縄の文化の特別さを更に感じられて、深く理解しました。



そして、私は県費留学生の皆さんと一緒に、学生ウチナーチュサミットと、県民とのゆんたくひんたく、日本語サークル、琉球舞踊の体験にも参加しました。名桜大学で開催された学生ウチナーチュサミットでの、移民の歴史に関するプレゼンテーションを通じて、私はさらに、沖縄移民についての歴史を勉強できました。私は皆さんの沖縄の歴史や文化に対する熱情も感じることができ、感動しました。また、県民とのゆんたくひんたくのイベントで、自分の国を紹介して、県民と一緒にゲームをしたりして、意見交換することができました。台湾に深く興味を持っている人が想像より多くて驚きました。色々な沖縄人と研修生の友達も作りました。また、私は何さんと NGO センターが行っている日本語サークルへ行きました。他の外国人と一緒に日本語を勉強して、沖縄と日本の文化も勉強しました。他の外国人の日本語の勉強に対する熱情と真面目さを見て、私ももっと頑張らなければいけないという気持ちが強まりました。また、沖縄国際大学の琉球芸能文学研究会が行った琉球舞踊の体験にも参加し

ました。県費留学生の皆さんとマミドームを踊りました。初めての琉球舞踊体験でしたが、私は琉球舞踊に興味を持つようになりました。冲国大の学生さんたちが真面目に琉球舞踊と三線を練習している姿を見て、私は感動しました。面白くて貴重な体験でした。



この一年間、私は充実した毎日を過ごしていました。私は色々な人と出会って、皆さんとの交流を通じて、自分の日本語力を上達させたことより、深く沖縄のことが理解できて自分自身の見え方が変わったことの方が一番大切だと思います。毎回の交流で、台湾について私の知らない面がまだたくさんあるということを認識して、もっと自分の国のことを知らなければいけないという気持ちが強くなりました。自分の国の歴史と文化の重要性が分かって、これから努力して勉強しようと思っています。また、沖縄は台湾から近いので、周りの台湾人の友達もよく沖縄へ旅行しに来るそうです。しかし、私が台湾人に伝えたいのは、沖縄が有名な観光地だけということではなく、沖縄人の人情味と沖縄の歴史と文化、そして、沖縄人の「命どう宝」とこの土地に対する愛と熱情の気持ちです。どうやって沖縄と台湾が繋がればいいのか真剣に考えていきたいと思っています。沖縄は私の二番目の家になりました。これからもうチナアンチュとして頑張っていきたいと思っています。



沖縄、私の人生の一章！

新里マルコスアキラ（ブラジル）

琉球大学



はいさい！はでいみてい うがなびら！（こんにちは、初めまして！）わんねー 新里マルコス明 んでい いちよいびん（私は新里マルコス明と申します）、3世やいびん（3世です）、ブラジルからちあびたん（ブラジルから来ました）。ブラジルうち土木技師やいびん（ブラジルでは土木技師です）35歳やいびん（35歳です）。琉球大学ぬがくしいやいびたん（琉球大学で勉強しました）。みしちよおていくいみそりよう（私を忘れないで下さい）。ゆたさぐるとうにげえさびら（よろしく願います）。

一年前県費留学として沖縄に来ました。この一年間はとても早く過ぎました。私の人生において忘れられない経験の一つとなりました。

私の祖父が生まれ、移住したのと同じ島に住んでいます。私の祖父母は私と同じように沖縄に帰る機会がありませんでした。私の家族の最初の移民はおじいちゃんでした。眞苅おじいちゃんは1917年に若狭丸でブラジルに行きました。お祖父ちゃんがブラジルサントス港に到着したとき、彼は15才でした。二人のいとこも一緒に行きました。そして、サンパウロの田園で働きました。祖父母は1929年に結婚し、父と父の兄弟はサントス市に生まれました。

その時私の家族はとても貧乏でした。そのため、私の家族は沖縄のコミュニティーに参加しないことになりました。でも、皆はぶちだんについてすべての儀式をし続けました。

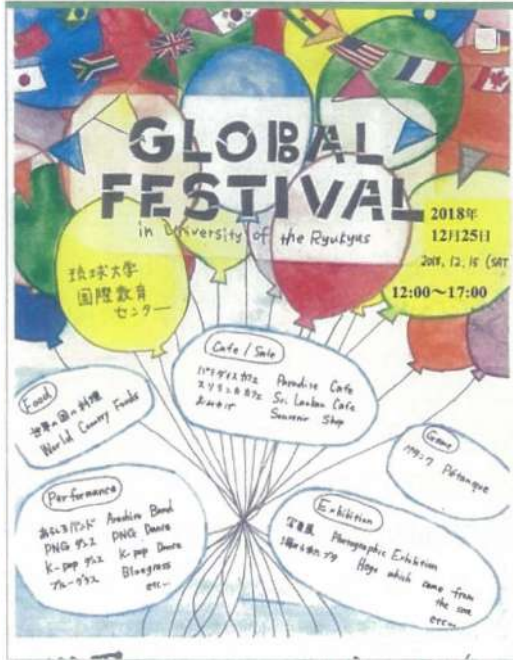
私は子どもの時から父母から沖縄の習慣を学びました。でも、沖縄の文化とコミュニティーを知ったのは、2002年からでした。この年、私は琉球國祭り太鼓に入りました。太鼓を叩くとウチナンチュの気分になります。けどおじいちゃんは故郷の沖縄に戻る機会がありませんでした。私が沖縄に戻ることで、私のおじいちゃんが故郷に戻れたような気がします。

琉球大学での生活

琉球大学には世界中から学生が来ています。多くの異なる言語と文化があります。毎日私は日本語の授業を受けました。金曜日は沖縄の文化と沖縄の歴史の授業があります。様々な場所に見学にも行きました。とっても面白かったです。例えば、かすり会館や、沖縄陸軍病院、南風原壕群 20号、エイサー会館、中

村家住宅、首里城、神村酒造です。沖縄の文化の授業がなければ、私はこれらの場所を知ることができませんでした。

琉球大学グローバルフェスティバル 2018



琉球大学には世界中からたくさんの留学生が来ています。このフェスティバルでは、さまざまな国についての公演、展覧会が行われ、そして様々な国の食べ物を食べることができました。



今回私はフェスティバルの実行委員長として選ばれました。毎週木曜日の会議に出席しました。フェスティバル当日、300人以上のお客さんが参加し、フェスティバルは成功でした。留学生、琉大の学生、西原高校生、琉大の先生と西原役場の方、皆さん大変お疲れ様でした。

親戚

私は家族の伝統について多くのことを学びました。今回は親戚と頻繁に会いました。沖縄で祝われる特別な行事に行くことができました。



友達

副知事の挨拶をするために沖縄県庁へ行ったとき、副知事は私たちに、「できるだけ多くの友達を作ってください」と言いました。



私は県費留学生と非常に強い友情を築きました。そしてまた、私は古くからの沖縄の友人以外にも多くの人々と出会いました。

私たち県費留学生は一緒に伊江島と京都に行きました。この二つの旅行はとっても楽しかったです。そして色々なイベントに参加しました。恩納村のハーリー、一万円エイサー、ウチナンチュサミットに参加しました。琉球國祭り太鼓、WUB、WYUA、その他の友達、多くの皆さんがサポートしてくれました。ありがとうございました。

西原町

二年前私は西原町の研修生でした。研修の後ではブラジル西原町人会の会長になりました。なので、私は町民と強い関係があります。

去年の西原町の研修生はウエンディでした。ウエンディはペルー出身です。研修の担当者は、私に小学校で発表をする機会に誘ってくれました。私とウエンディは色々な西原町の小学校に行き、私たちの出身国について発表しました。とても楽しかったです！



私が学んだすべての知識を活かし、将来の交換留学生の為に協力したいと思います。将来的には私は日本語をさらに上達させ、この島の人々との絆をさらに強化したいと思います。私は沖縄に絶対に帰って来ます！

かけがえのない思い出

屋良弘美（ポリビア民族国）

琉球大学

私はポリビア生まれポリビア育ちの日系二世です。お父さんは日本人で、お母さんはポリビア人です。それに面白いところは、地域によって私の国籍が変わります。ポリビアでは日本人と呼ばれ、日本ではポリビア人と呼ばれています。沖縄に来る前に、そのコメントを気にすることなく生きてきました。けれども、沖縄に住んでいた間に気付いたのは、日本人より、私はウチナーンチュと呼ばれたいです。

「沖縄はお父さんの故郷だ。」それ以外に何も知らなかった私は、自分のルーツである沖縄についてもっと知るためにこのウチナーンチュ子弟等留学生受入事業に応募することを決めました。平成 30 年度のポリビアの留学生は私だけでした。私は多くの希望と不安を抱いて、沖縄に踏み切りました。

親戚との出会い

沖縄に来て、保証人の叔父さんに初めて会いました。糸満市に住んでいる家族がいるということは、5 年前に聞きました。その 5 年間の間に、2 人の兄弟を優しく家に受け入れました。同じように、一度も会ったことのない私を温かく受け入れてくれて、心から感謝しています。ウェルカムパーティー、ビーチパーティー、お盆の日、お正月、そしてお姉ちゃんが沖縄に遊びに来た時も、いつも楽しく過ごしました。地球の裏側の大きな家族と出会えたのは、この研修のおかげです。私はいつもこう思っています。「家族といれば、どこでも自分の居場所になれる」。



素晴らしい時間を過ごせた琉球大学

私は日本語と沖縄の文化、歴史などを学びたいと思い、友達が進めてくれた琉球大学を選びました。

日本語に関して目指したのは、JLPT N2 に合格する事でした。自分の日本語のレベルを上げるために会話、読解、文法、漢字などの授業を取りました。その他、アカデミック日本語やビジネス日本語も取りました。ちょっとした質問でも日本人の先生方は丁寧に教えてくれ、有益な時間を過ごすことができました。

ポリビアで日本語学校に通って、10 年ぶりに日本語を勉強するのは大変だと思いましたが、意外と授業の内容は大丈夫でした。ビジネス日本語及びアカデミック日本語の授業は少し難しかったが、内容はとても役に立ちました。この一年間必死に日本語を勉強したおかげで、日本語能力試験に合格しました。

この1年間主に大事にしたのは、沖縄の文化、習慣、伝統などを学ぶことでした。ですから、琉球大学で沖縄の文化や歴史の授業を取りました。沖縄歴史の授業は、前期には沖縄は日本の1部分になった後の歴史を学びました。例えば、米軍基地の問題や観光問題、そして後期は新石器時代からグスク時代を勉強して、もっと深く理解するために、対馬丸記念館、宜野湾市博物館、湊川フィッシャー遺跡などの様々な博物館や場所に行きました。毎週意見交換をしたり、北上田先生から何でそう思っているのかを聞いたり、面白くて有意義な授業でした。

沖縄文化の授業が一番好きな授業でした。赤嶺先生はすごく優しくて、沖縄の色々な習慣や伝統的な文化を教えました。焼物博物館に行って、やちむん通りでぜんざいを食べたり、緋会館に行ってコースターを作ったりしました。



琉大は私にとって沖縄の大事な場所です。同級生はみんな外国人です。ヨーロッパのスペイン人、スウェーデン人、ドイツ人、アジアの韓国人、中国人、台湾人、インドネシア人、タイ人、そして北アメリカのアメリカ人、ハワイ人もいました。南米の学生はただ一人のコロンビア人です。皆の国の文化や伝統について意見交換もして毎日面白かった。



ヨーロッパの人と普通に英語で話していますが、アジアの人たちは日本語しか使えませんので、英語と日本語両方の勉強ができてとても嬉しかった。最初に日本語をあまりできないと心配で、日本人と話して、「日本語上手だね！」と褒められて、「私のレベルでも意外と何とかなるんだ!!」と感じました。世界中の友達ができ、一緒に勉強したり、食堂や居酒屋に行ったり、カラオケで歌ったり、沖縄を巡ったり、数えられない沢山の思い出ができました。友達が帰国する時に泣いたり、新しい留学生が来るのを楽しみにしたり、いつも感動する瞬間を過ごせました。

沖縄県国際交流人材育成財団

財団のおかげで、沖縄の色々なことを学び、沖縄の色々な人と出会い、沖縄の色々な所を訪れました。



平和研修で、糸満市にある平和祈念公園で慰霊の日の為に行った式典に参加することができました。資料館の中で、沖縄戦についての、戦前、戦中、戦後の3つの部屋があり、沖縄の様子ができる資料が展示されていました。沖縄戦の写真や遺品の展示や、戦争体験者の証言集を見ることができました。

文化研修で、那覇まちなみ「マチグラー迷宮めぐり」というプログラムに参加して、平和通りを歩きながら、いろんなところを紹介して、沖縄についての知識を深めることができました。また、沖縄の地域住民と交流し、生活や伝統的な文化について学ぶことができました。

歴史学習研修では、沖縄県立博物館に行きました。初めは、沖縄大学客員教授の新城俊昭先生による歴史学習講座がありました。講座の内容は主に中国と琉球王国の関係、貿易、海外移民でした。博物館には、琉球王国の時代から現代までの沖縄の歴史、自然、伝統文化の流れを中心に展示されていました。

9月3日(月)から9月5日(水)まで、伊江島民泊研修で伊江島に行きました。ひとみさんの家に泊まりました。すごく優しくて親切な、歌が上手な方でした。毎朝、早く起きて、朝ごはんを作ってくれました。その上、色んな所に連れて行ってきて、どこに行っても、みんなはひとみさんの事を大好きだと分かりました。みんな一緒に172mtsの「城山」に登りました。頂上に着いて伊江島をぐるっと360度見渡し、畑や遠目に青い海の景色が見えました。伊江島の一番好きな場所は「湧出展望台」でした。吹き付ける潮風は静かで風と波の音しか聞こえない癒しの場所でした。そしてみんな「ドラゴンボート」をしてビーチで遊びました。伊江島での日常生活を経験し、農作業などの単純な作業でもすごく疲れると分かりました。朝早く起きて、夜早く寝て、忙しい生活の中でもいつも笑顔で頑張り屋さんな家族でした。



最後の研修は京都研修でした。私は初めて京都に行きました。それに、みんなと一緒に楽しめて最高の旅行でした。京都で日本の伝統的な文化を学び、体験しました。例えば茶道体験や参拝をしました。私は日本の文化や歴史についてあまり知りませんでした。ガイドさんがすごく詳しく説明してくれたおかげで、たくさん学びました。この知識をもって、沖縄と日本の異なるところはたくさんあると気づくことができました。

沖縄の文化や伝統を深める経験

県費のルシアと奈美恵に招待されて、沖縄国際大学で芸能文学研究会のサークルに参加しました。そこで琉球舞踊を習いながら、三線もちょっとだけ練習しました。八重山民謡の「貫花(ぬちばな)」と沖縄の雑踊りとして有名な「マミドーマ」という曲を踊れるようになりました。東村公民館の舞台上で演じました。本当に怖くて、不安だったけど、参加して本当に良かったです。



県費留学生と一緒に移民の日のイベントに参加して、三線で安里屋ユンタをひいたり、歌ったり、踊ったりもしました。初めてのエイサー体験で、それに練習はただ2回でしたが、みんな頑張っていていい発表でした。

友達とビーチパーティー、恩納村のハーリー大会（喜納昌吉さんのライブもありました！）、てんぶす那覇で行われた宮沢和史さんプロデュースの沖縄民謡コンサート、一万人のエイサー踊り隊、名護ラテンフェスティバル、沖縄そば作り体験、シーサー作り体験、第4回世界ウチナーンチュ学生サミット、ルンルンバルーン琉球舞踊 Happy Ballons など、色んな所に行ったり、たくさんの人に出会えたりしました。日本人だろうが日系人だろうが、外国人だろうが、出身はどうでもいい、愛される沖縄は一つだと感じました。

お盆のウークイの日に糸満に住んでいる親戚の家に行きました。初めてのお盆で何をすればいいのかわからなくて、みんなに教えてもらいました。沖縄の文化や伝統的なお祝いを体験し、すごく勉強になりました。

沖縄の自然も楽しむことも重要です。友達と一緒に海へ行ったり、美ら海水族館で様々な海洋生物を見たり、名護の桜祭りや勝連城、座間味城にも行ったりしました。その中で一番楽しかったのは滝でトレッキングしたことです。琉大のスペイン語のサークルのメンバーで、沖縄本島北部の大宜味村にある「ター滝」にも行きました。美しい自然に囲まれてリラックスできる場所でした。



国際家族。県費のみんな

アルゼンチン、ペルー、ブラジル、台湾、中国、みんなバラバラの国から来ましたが、この1年間で作った友情は私にとって大切な宝物です。毎週末、みんなでどこかに行く計画をしていました。みんな沖縄の文化や伝統に興味があったので、色んなイベントに行き、その後ご飯を食べに行きました。誕生日はいつもパーティーでお祝いしました。どんな事があっても、悩み事があっても、いつもお互いに相談し助け合って素晴らしい一年間を過ごしました。みんなに出会えて、恵まれていると思います。沖縄の表現と同じように「いちやりばちよーでー」の気持ちで、沖縄に感謝しています。

一年間の留学生活はあっという間に過ぎ、全てを書ききれないほど沢山のことを体験、経験しました。留学して気づいたことは、私たち海外に住むウチナーンチュを温かく迎えてくれる人が沖縄にいるということ、沖縄は2番目の家になりました。沖縄で最高の仲間に出会うことができ、世界中のウチナーンチュと友達になって、沖縄の美しさや素晴らしさを知り、今までの自分の生き方は変わると分かりました。



私はボリビア人でもあり、日本人でもあり、その中でウチナーンチュでもあることに誇りを持って、生きていきます。

このような機会をくださった沖縄県や沖縄県国際交流・人材育成財団、そしてこの1年間の旅を一緒に歩んできた人たちに心の底から感謝しています。

ウチナーンチュから教わったこと

何 芸嬌 (中国)

琉球大学

ウチナーンチュではないが、平成 30 年度ウチナーンチュ子弟等留学生として、沖縄へ一年間留学することができて、感謝の気持ちでいっぱい。時間が経つのがあまりにもはやくて、留学生活にそろそろ終止符を打つところだ。一年間も家族と離ればなれになって、帰りたい気持ちはあるが、沖縄を離れることを考えると、胸がギュッと痛みを感じた。私にとって、いつの間にか沖縄は私の居場所になっていて、日本にいる時の故郷になった。沖縄での一年間を通じて、語学力だけではなく、いろいろ鍛えられたと思う。

来たばかりのことを思い出すと、ちょっと恥ずかしかった。七年ぶりの一人の生活に慣れなくて、30 代でありながらよくホームシックになって、夜中に何回も泣いてしまった。四歳の息子を国に置いて、一人で海外へ留学に行くことはやはりひどいことで、母親として失格だと言っている自分がいた。一方、せっかくの留学チャンスを見逃してはいけないし、人生は長いから一年間ぐらい自分のために頑張ってみよう、帰ったらまた家族に捧げてもいいじゃないかと言っているもう一人の自分がいた。悩みに悩んだ結果、留学することになった。だから、どんな泣いても自業自得で、仕方がないことだ。我慢して強くなって、悔いのない留学生活が送れるように頑張るしかない。今、その 10 か月間は去っていった。無事に乗り越えてきて本当によく頑張った。そして、いろんな人のおかげだと思って、彼らに感謝したい。では、感謝の気持ちを込めて、この一年間の生活体験を報告する。

琉球大学の生活

琉球大学は 1950 年にアメリカが建てた大学で、もう 70 周年近くの歴史を持っている。学校も広くて、一周回るには 25 分ぐらいかかる。そして、緑いっぱいの自然環境に恵まれていて、千原寮から教室に行く時に渡る橋の下に、カモもいて、それらを見るのが授業に行く時の楽しみだ。また、琉大の先生も、事務室や生協のスタッフもみんなやさしくて、分からないことあれば、いつも親切に教えてくれた。

それから、琉大の学生のことだ。いろんな国からの留学生が大勢で、異文化交流ができて楽しかった。国に帰っても、いろんな国に友達がいて、実に素晴らしいことだ。しかし、私がかつて感動したのは、琉大にいる学生実行委員会の学生たちのことだ。彼らは、大学生でありながら、沖縄県民のことを大事に考えていて、米軍基地にもものすごく反対していた。しかも、学校でいろいろ宣伝し、辺野古新基地の建設に反対の抗議運動を行った。本当に日本大学生への印象を一新した。また、彼らの部活への情熱さに感心した。琉大祭の時、吹奏部や茶道部や演劇部やエイサーなど、みんな自分なりに頑張っていた。特に、エイサーをやってくれた学生たちの力強さに心を打たれた。その情熱は沖縄の夏よりあつかったと思う。





琉大での勉強は、面白くていい勉強になった。アカデミック日本語の授業で論文やレポートの書き方を習ったり、沖縄歴史の授業で琉球王国時代のことを勉強したり、沖縄文化の授業で沖縄の建築や陶芸、紅型などについて学んだりした。しかも、ワークショップが多く、印象深く面白かった。この一年で、織物や茶碗、シーサー作りなどいろいろ体験できた。これらの授業によって、沖縄のことについてもっと分かるようになった。



沖縄での生活

沖縄での生活は幸せだ。海もきれいだし、食べものも美味しいし、特に沖縄の人々ウチナーンチュがやさしくて親切だから。本当に都に住んでいるように思う。(交通のことは別として) この10か月無事に乗り越えてきたのは、家族の支えだけではなく、ウチナーンチュのみなさんのおかげだ。私の知っているウチナーンチュはみんな優しくて親切で、そして情熱に溢れていて、自分のアイデンティティに自信・誇りを持っていて、生活を楽しんでいる素敵な人たちだ。

例えば、名桜大学に行く時、バスに乗れなかった私を無料で名桜大学まで送ってくれたおばさんや、伊平屋ムーンライトマラソンに参加した時、鍋の蓋を叩いて応援してくれた可愛いおばあさんや、伊江島民泊体験の時40歳になってギターを弾き、歌を歌い始めた島袋さんや、いつも私のことを支えてくれて、50代であっても外国語の勉強に頑張っていてやる気満々の安里さんなど、みんな親切で豊かな心を持ち、それぞれの人生を楽しんでいた。彼女たちから、勇気も元気もいっぱいいただいた。



そして、県費留学生として、参加させてくれた歴史講座の勉強や、慰霊の日の平和学習、名桜大学の学生サミットへの参加などから、沖縄の歴史だけでなく、ウチナンチュの平和への発信、ウチナンチュの自分のアイデンティティへの認識を強く感じ取った。そして、ウチナンチュ大会の開催、ウチナンチュの日（10月30日）があることから、ウチナンチュの自分のアイデンティティに誇りを持っていることもずいぶん分かってきた。ウチナーネットワークを通してみんなの心をつなげて、世界中のウチナンチュが繋がるという夢がいつか実現できると信じている。



沖縄に来て寂しかったり悩んだりした時はあるが、沖縄への留学を一度も後悔したことはなくて、留学に来てよかったと思う。たくさん経験できただけでなく、ウチナーンチュにいろいろ教えてもらったから。年齢と関係なく、夢を持っていれば、いくつになっても新しい人生を開くことができると思うようになった。そして、どんなことでも、できるかできないかではなく、やってみることが一番大事だとウチナーンチュの女性たちが教えてくれた。伊江島の島袋さんの歌の「あなたの手を握り締めて、私は強くなりたい」という歌詞に強く感銘を受けた。母親である私も子供のために、家族のために頑張らないといけな

それから、本土と違って、ウチナーンチュにはウチナータイムがあって、のんびりしているように見えるが、自分なりに頑張っている。逆に言えば、ゆっくりした生活を楽しんでいるからこそ、心も豊かになって、いつも道を譲ってくれたり、困っている人を助けてくれたり、誤った人を大目に見てくれたりすることができたのではないだろうか。だから、国に帰ってもここでの出会いを忘れない。

この10か月間日本本土に三回行って、沖縄とは違う日本文化を体験した。2018年の8月は東京、2019年の1月と2月に京都に行った。東京も京都も観光客に溢れていて、たぶんいつ行っても混んでいるだろう。東京は現代大都市という感じで、若者文化の都会とも言える。その一方、京都は日本のいろいろな伝統文化を守っている歴史古い都会だと思われる。



徳川時代の二条城、豊臣秀吉ゆかりの三十三間堂、金閣寺、伏見稲荷神社、清水寺、大阪城など、各処に日本の歴史・文化が残っている。国の重要文化財、しかも世界遺産になったところも何か所ある。外国人留学生や県費留学生と一緒に体験に行って、いい勉強になった。そして、写真もたくさん撮って、いい記念になると思う。

国に帰ってから日本語の先生として、学生に日本語を教える時、日本の文化をもっと正しく伝えるように頑張ります。そして、ウチナーンチュから教わった「いちゃりばちよーでー」という豊かな心を大切にして、親切のバトンタッチをしていきたい。

最後に、いろいろお世話になった県庁の方々、財団の方々、ほかの11人の県費留学生、そしてウチナーンチュのみなさんに「ありがとうございました」と伝えたい。



夢を叶えてくれた沖縄

陳 慧安 (台湾)

琉球大学 / ホテルムーンビーチ

私にとって、沖縄は夢を叶えてくれたところです。日本に留学することは、学生時代からずっと私の夢です。しかし、厳しい家計のために、留学は私にとって無理なことでした。そして大学を卒業後、ホテルで 3 年間ぐらい働いてから、体調を崩し会社を辞めて療養することになりました。療養した 1 年間の間に、私は体調を整えながら、自分が大好きな日本語を勉強し、日本語能力試験 N4 から N2 までの資格を取りました。体調が治り、仕事探し始めようと思っていた時に、夢が叶う光の「ウチナーンチュ子弟等留学生募集」を見ました。専攻が日本語学科や日本語を勉強した歴史が長い人と比べて、専攻は日本語でもなく日本語を勉強した期間は 2 年間ぐらいしかない私は、合格の可能性が低いと思いました。しかし、このような機会を逃したら、絶対に悔しくなると思ったので、応募を決めました。それから、私の夢の種を蒔きました。

この 1 年間、私の留学プログラムは、上半期は琉球大学で日本語を勉強して、下半期は企業で研修しました。研修先はホテルムーンビーチです。

琉球大学

琉球大学での通学期間は 2018 年 4 月から 2018 年 9 月までの半年です。琉球大学で日本語を勉強しただけではなく、サークルと企業インターンシップにも参加しました。体験したことや勉強したことは下記のとおりです。

習得科目	勉強したことや感想
聴解	葦原先生は、たくさんのおもしろい日本番組を用いて、授業をしました。例えば、「外国人が分からない日本の差」、「秘密の県民 SHOW」と映画などです。この授業のおかげで、色々な日本のおもしろい文化と習慣を知っただけではなく、番組から、たくさんの教科書が教えてくれない日本の生活言葉も勉強しました。
読解	先生はたくさん雑誌、小説とチラシなどの資料を配ってくれて、文章を読んだ後、皆さんと一緒に自分の意見と感想を共有しました。日本で暮らしている私たちにとって、テストのために書かれた文章より、たくさん生活に関する文章を読むことは、さらに役に立ったと思います。
アカデミック日本語	先生は沢山の似ている日本語文法の使い方を教えてくれました。そして、将来琉球大学に留学に来たい外国人のために、琉大生活も楽しみ方についてのパネルを作りました。パネルも学校で展示しました。
ビジネス日本語	たくさん日本の職場マナーを勉強しました。例えば、名刺交換、職場のメールの書き方と面接マナーなどです。先生が教えてくれた日本語の敬語は、私がホテルで研修していた時に、本当に役に立ちました。
会話	先生は一つのテーマを与え、このテーマについて、自分が体験したことと自分の国の文化などについてコミュニケーションをしました。そして学期末には、日本の居酒屋文化について、日本人にインタビューし、ビデオを作り、YOUTUBE にアップロードしました。



沖縄の歴史



琉球王国から現代まで沖縄の発展史について学びました。そして、沖縄はどのように残酷な沖縄戦から復興してきたのかについても勉強しました。また、「対馬丸記念館」で対馬丸事件について勉強しました。「佐敷干潟」で生物の観察にも行きました。

沖縄の文化



紅型や、壺屋焼物、民謡などの沖縄伝統芸能の特徴と発展史を勉強しました。壺屋焼物博物館と平和記念資料館に見学に行きました。そして、南風原の花織の作成方法と作品を見学して、花織も体験しコースターを織りました。

日本の文化



一番印象に残ったのは生け花の体験です。先生は生け花の先生を呼び、日本の生け花の挿し方を教えてくださいました。私は初めて日本の生け花にはたくさんのルールがあると分かりました。そして、沖縄で一番古い神社の波上宮と護国寺に見学に行きました。初めて日本の参拝を体験しました。

サークルアクティビティ



琉球大学で中国語サークルに入って、中国語を勉強したい日本人と一緒に勉強し、台湾の文化も紹介しました。そして、ペットの里親会というボランティア活動に参加しました。それから、サークルのメンバーと一緒にちよこつツアーというショートツアーに参加しました。戦争時代のガマへ見学に行き、那覇市の首里城などの名所を巡りながら、沖縄の歴史を勉強しました。このツアーから沖縄戦について更に理解できただけではなく、平和の重要さも深く感じました。

外国人留学生インターンシップ ダブルツリーBY ヒルトン那覇



琉球大学での授業が終わってから、これからの研修に早くなれるために、夏休みに、学校の外国人留学生インターンシップに参加しました。このプランは 2 週間、敬語と職場マナーを勉強した後、企業で 2 週間の研修をしました。私は那覇市のダブルツリーBY ヒルトンホテルで研修しました。朝はレストランで朝食の仕事をサポートして、午後はフロントで接客の仕事の研修をしました。

ホテルムーンビーチ

下半期の2018年10月から2019年2月まで、私は恩納村のホテルムーンビーチで二つの部門で研修をしました。3ヶ月は宿泊部門のベルで、2ヶ月は料飲部門のコラーロでの研修でした。



まずは、簡単にこのホテルを紹介させていただきます。このホテルは沖縄で一番古いホテルと言われて、もう44年間の歴史があります。ムーンのようなビーチに囲まれていることから、ムーンビーチという名前を付けられました。そして、一日中ずっとクーラーをつける現代的なホテルと比べて、このホテルの中にはクーラーがなく、たくさんの植物が飾られています。お客様は自然に親しむことができます。このホテルはとても広くて、実は私は研修を始めた最初の1ヶ月ぐらいは、いつもホテルの中で迷ってしまいました。

そして、このホテルは宿泊と食事を提供するだけでなく、色々なサービスも提供しています。例えば、ダイビング、シーウォーカー、ドラゴンボートなど色々なマリンスポーツが体験できます。綺麗な海が見えるプールやサウナ、お土産が買える売店も揃っています。また、ウェディングプランナーのサービスと結婚式のチャペルもあります。ホテルではゴルフとテニスでもできます。色々な設備とサービスがあるので、お客様は一日中ホテルの中でリラックスすることができます。

宿泊部門のベルサービス



研修を始めた最初の3ヶ月、私は宿泊部門のベルで研修をしました。ベルという仕事はホテルの玄関でお客様を応接することです。主な業務内容はお客様の質問対応、荷物のお預かり、団体の案内誘導、観光情報のご案内とお部屋までのご案内などです。他の仕事内容は下記のとおりです。

1. 車の寄せ：来客の車を寄せて、お客様の訪問目的を確認してから、各の担当部門のスタッフを連絡するという仕事です。例えば、チェックインのお客様の予約情報を確認してから、先にフロントに情報を伝えると、お客様がフロントに着く前に、スタッフが宿泊用の物を準備しておくことができます。こういう流れはサービスがうまく行くようになりました。
2. ランドリーの扱い：宿泊のお客様がランドリーサービスを利用するかどうかを確認し、ランドリーを扱うことです。
3. 修学旅行の手配準備：修学旅行のお客様の人数がいつも多いので、団体が入る前に、必要な設備のテーブルとホワイトボードなどを準備しておくことやお客様が配達してくる荷物を搬入することです。
4. フルーツセット：リピーターや、特別な記念日を祝うお客様のお部屋で、カートフルーツを準備します。例えば、結婚記念日やハネムーンなどです。
5. デリバリーサービス：お客様の荷物と必要なものをお部屋までデリバリーすることです。
6. 通訳：私は英語と中国語が話せますので、外国人のお客様とコミュニケーションする時に、いつも通訳の仕事を頼まれました。



宿泊部門の研修が終わってから、料飲部門のコラーロというレストランで研修しました。主な業務内容はお席のご案内、注文を受けること、お客様の質問対応と通訳などです。他の仕事内容は下記とおりです。

1. 朝食の準備：ホテルムーンビーチの朝食時間は朝 6：30 からなので、料飲で研修した最初の 1 ヶ月はいつも朝 6：00 出勤しました。お客様が入る前に、全部の料理をセットしなければいけません。朝のスタッフも少ないので、朝食の時間がいつも一番忙しかったです。
2. ホールの準備：仕事に必要なものを準備することです。
3. 中間バッシング：お客様の食事中に、お皿を下げることやテーブルを片付けることです。
4. 昼食の準備：ホテルムーンビーチの昼食には二つのスタイルがあります。当日の予約人数によって、バイキングとセレクトが決まります。セレクトの場合には、お客様はメインが選べて、バイキングも楽しめます。そして昼食が始まる前に、テーブルに食器のセットも必要です。
5. テーブルサービス：昼食に、デザートと飲み物を準備しておいて、カートでお客様のテーブルの隣にサービスを提供することです。

私にとって、研修で一番きつかったことは、日本人のお客様の言っていることの意味と同僚が伝えてくる業務内容が分かりませんでした。特に、ベルで研修していた時、業務内容はいつもインカムでイヤホンから伝えられました。たまにインカムの電波があまり届かなかったことや、私にとって日本人の話すスピードも速いので、分からなかった時本当に困りました。でも、ホテルムーンビーチで外国人のスタッフが私一人だけで、毎日日本語でコミュニケーションをするので、日本語ももっと上手になりました。とても嬉しかったです。

他の体験したこと

<p style="text-align: center;">平和研修</p>	<p>平成 30 年 6 月 23 日に、県費留学生と一緒に沖縄の慰霊の日に参加しました。平和記念公園にある資料館を訪れて、沖縄戦について、戦争が起きた原因や、戦争中の沖縄県民の生活、戦争を経験した人の証言、戦闘についての動画など色々な資料を拝見しました。そして、「沖縄全戦没者追悼式」に参加して、戦争の犠牲者の冥福を祈り、世界の恒久平和を誓いました。追悼式が終わった後、二度と戦争を起さないよう、平和への思いについてディスカッションをしました。この研修のおかげで、平和の重要性を深く感じました。</p>
<p style="text-align: center;">歴史講座</p>	<p>平成 30 年 8 月 10 日に、沖縄県立博物館で歴史学習研修をしました。新城俊昭先生の歴史講座を受け、琉球王朝時代の中国や薩摩との関係と沖縄県民の県外流出の歴史などを勉強しました。そして、沖縄県立博物館で様々な沖縄史前の文化・陶芸の発展史・琉球王国の位階や服装・交通機関の発展や昔の建物と生活様子などが描かれている屏風絵を見学しました。</p>

伊江島民泊研修



平成 30 年 9 月 3 日から 9 月 5 日までの 2 泊 3 日間、国頭郡伊江村で民泊研修に参加しました。伊江島の自然や生活を楽しみながら、伊江島の歴史や文化を勉強しました。皆さんと一緒に伊江島で一番高い「城山」に登ったり、農作業やドラゴンボートを体験したり、伊江島の聖地の「ニヤティヤ洞」を訪ねたりしました。

初めて民泊を体験しました。暖かく親切な島民たちにお世話になり、本当に忘れられない思い出になりました。

文化研修



平成 30 年 11 月 16 日に、那覇市の国際通りで文化研修に参加しました。国際通りを散策しながら、那覇市の歴史と文化を勉強しました。「那覇まちま〜い」が終わってから、沖縄の伝統工芸の「琉球漆器」の「堆錦」という作業を体験して、コースターを作りました。この研修のおかげで、国際通りの歴史を勉強しただけではなく、沖縄の多様な文化の由来も深く理解できました。

京都研修



平成 31 年 2 月 12 日から 2 月 14 日までの 2 泊 3 日間、京都研修に参加しました。二条城・三十三間堂・マンガミュージアム・八坂神社・長楽寺・清水寺・金閣鹿苑寺と伏見稻荷大社などの京都の名所を巡りました。そして、初めて宿坊・茶道とお寺のお勤めの読経を体験して、京都の名物料理の「湯豆腐」と色々な抹茶デザートを食べました。

県費留学生皆さんとの最後の研修だったけど、とても楽しかった三日間でした。絶対に忘れられないと思います。

沖縄での留学がまもなく終わります。この 1 年間、皆さんと一緒にいったところや体験したことがたくさんありました。県費留学生の研修だけではなく、ビーチパーティー・宮沢和史のゆんたく歌会・齋場御嶽・フォレストアドベンチャー・海炎祭・1 万人のエイサー・古宇利島・瀬長島・美ら海水族館とアメリカンビレッジなどにも行き、色々な思い出を作りました。

1 年間の留学を通して、沖縄との深い絆を築き、日本にもより深く恋に落ちました。台湾に帰ってから、沖縄での生活を友達と周辺の人に伝えたいし、沖縄の美しさをもっと多くの人に共有したいです。そして、もっと深く日本の文化を知るために、今年の下旬もまた日本に戻ってきて、日本で就職したいと考えています。

この留学のおかげで、ボリビア・アルゼンチン・ペルー・ブラジルと中国からの友達も作りました。もちろん、仲の良い日本人の友達も作りました。留学の期間に、たくさんの暖かく親切な沖縄の人に大変お世話になりました。私たちがこんなに遠い距離を超えて沖縄で縁を結べたことは、本当に不思議です。留学が終わっても、皆さんと一緒に沖縄で暮らした生活は、絶対に忘れられない思い出になると思っています。私たちの繋がりも永遠に終わりません。

三線が繋げてくれた世界

蔡 其澄 (台湾)

三線工房いーばる

沖縄と出会ったのは、2011年の秋でした。東京の大学で交換留学していた私は、社会言語学ゼミの合宿で宮古島に行きました。その時、初めて沖縄そばを食べ、不思議なほど青い海ではしゃぎ、星が降りるような綺麗な夜空を満喫しました。そして、一番大事なのは、三線の音色と沖縄民謡に心を惹かれたことです。

それがきっかけで、初心者用の三線を買って、自分で適当に練習する日々が何年間も続いていました。限界を感じるようになった頃、たまたまウチナーンチュ子弟等留学生募集の情報を見て、「これだ！」と思い、応募しました。幸運なことに、受入れていただき、2018年4月から1ヶ月間、三線製作の研修をしました。

三線製作研修

私は、研修生として沖縄県三線製作事業協同組合に受け入れていただき、那覇市にある三線工房「いーばる」で上原正男先生の指導を受けていました。三線に触ったことがありますが、製作はまったく別の次元のことです。木工の経験すらなかった私に、上原先生から道具の使い方など、基礎から教えていただきました。1ヶ月目は、三線の7つの型と各部位から勉強し始め、原寸図を元にして、型紙を作りました。それから棹打ち、皮張り、組み立て、歌口とカラクイの製作、糸結びを学び、自作の三線を完成させました。



三線製作の工程において、棹打ちが一番時間のかかる作業です。この一年間、4本の棹を完成させました。それぞれ異なる木材を使い、異なる型を作りました。最初は柔らかい桜の木と相思樹を使い、慣れてきたら硬めのゆし木で棹を作りました。型は、タワイ真壁型、久葉の骨、与那城型、真壁型（湧川開鐘）の4つです。



↑型紙を使って、木に線を引いてから、上原先生にバンドソーで大体の形を切り出していただきます。そして、芯から始め、野坂、鳩胸、野丸、天など各部位を削り出し、最後はサンドペーパーで仕上げます。

皮張りも学びました。人工皮と本皮（ニシキヘビの皮）の2種類があります。本皮張りをする前に、まず皮の裏に薄く付いている肉を外すという下処理が必要です。工房では、ジャッキを使って皮張りをします。張り加減の調整がとても難しいです。1年間の研修で色々勉強しましたが、イメージ通りの音が出る三線を作れるようになるまで、何年間も修業しなければならないのでしょう。職人さんたちは本当にすごいと思います。

三線組合は、皮張りの伝統的な技法「クサビ張り」についての勉強会を2回開きました。私は写真・動画撮影の手伝いをしながら見学しました。布に縫いてある皮とチーガーをひもでぐるぐる回して、隙に木の楔を打ち込んで、皮を伸ばす技術です。三線の長い歴史を感じられる技法だと思います。勉強会では、他の工房の職人さんと交流することもでき、楽しかったです。



私は、三線を弾かない家族に何かプレゼントできないかな、という思いから、ミニ三線を2本作ってみました。全長30センチ以内に縮めて、かわいい感じに仕上げました。カラクイや糸掛け、ティーガーなどの部品も自分で作りました。音が小さくて、ちんだみが難しいですが、弾くことはできます。工房に来るお客様や友達が「かわいい」と言ってくれて、嬉しいです。



三線組合は、三線製作工程だけではなく、ほかの関連事業にも取り組んでいます。例えば、三線を国の伝統的工芸品に指定させるための申請手続、ブランド化への取組み、後継者の育成、県立芸術大学や県立博物館との連携を進めています。三線という文化を守るためには、いい三線を作ればいいというわけではありません。ビジネスや法律面から考えなければならないこともたくさんあると知りました。三線組合は、三線の棹に使われる黒木の植樹事業「くるちの杜100年プロジェクト in 読谷」にも関わっています。それは、「100年先の子どもたちへ沖縄県産のくるち（黒木）でできた三線の音を届けよう」という壮大な夢を目標として立ち上げられたプロジェクトです。私は、6月に初めてくるちの杜に行って、草刈り作業をしました。そして、10月に行われた10周年イベントにも参加しました。黒木に肥料を与えたり、三線組合のブースの手伝いをしたり、講演を聞いたりして、充実した一日を過ごしました。当たり前のことですが、三線を作るとき、地球の資源を消費します。だから、持

続可能なやり方を探さなければ、未来の世代へ継いでいけないかもしれません。くるちの杜は、とても有意義な活動だと考えています。



2019年2月5日から1ヶ月間ぐらいの期間、沖縄県立博物館・美術館で「沖縄が誇る家宝の三線展」という展示会が開かれていました。ここでは歴史のある素晴らしい三線がたくさん展示されていました。三線を作った経験を持っているので、各時代に作られた三線の形、継ぎ目などの技術が見ることができ、面白かったです。この1年間を通して、三線の知識を少しずつ積み上げてきたと実感しました。

琉球伝統芸能との触れ合い

大里三線教室

上原先生の紹介のお陰で、実演家・大城貴幸先生に歌三線を教えていただきました。週1回の頻度で、南城市大里大城區にある稽古場に通い、古典曲も民謡曲などの練習をしていました。歌詞がほぼ全部ウチナーグチなので、覚えるのが大変でしたが、大城先生はいつも、歌詞の意味、歌の由来などを丁寧に教えてくださいました。歌を通して沖縄の地理、昔の人々の生活についてもっと知ることができ、嬉しかったです。

沖縄に来る前に、ずっと自分で工工四を読みながら弾いてきました。沖縄に来てから初めて、工工四ではなく、先生の手を見ながら弾きました。最初は全然ついていけず、心折れそうになった時もあります。でも、工工四に頼れないぶん、耳を澄まして、先生の演奏と歌だけに集中できるというメリットがあると思います。これから、感覚をもっと磨いて、より多くの曲を弾けるようになりたいと思います。

お稽古に通っているほかの生徒たちとも仲良くなりました。台湾のことを紹介したり、沖縄の話を知ったりして、楽しかったです。年末、大城先生の実家で忘年会を開きました。三線教室の生徒たち、大城先生のご家族とご近所さんが集まって、和気あいあいとした忘年会でした。



琉球芸能鑑賞

琉球芸能を時々鑑賞しに行きました。組踊は『銘苺子』と『執心鐘入』を観に行きました。国立劇場おきなわ主催のバックステージツアーにも参加しました。バックステージツアーには組踊ワークショップが行われ、現役の役者と地謡の方々から、組踊の3つの要素「唱え」、「音楽」、「踊り」について紹介していただきました。2, 300年前の人々と同じ演目を楽しんでいると考えたら、なんか不思議な気分でした。

また、8名の師範による演奏会「歌鎖～七夕歌会～」、琉球古典音楽安富祖流の大先生・大湾清之先

生による研究発表会「中風～なかふう～」、琉球新報社主催の「第53回琉球古典芸能祭」、琉球古典音楽安富祖流絃声会うないの会による公演「うないの華心」、琉球器楽の会による公演なども観に行きました。

沖縄に来る前に、民謡曲とポップスしか知りませんでした。初めて古典曲を聞いたときも、テンポがゆっくりで眠くさせる歌だなと思いました。でも、お稽古を重ねて、本物の演奏家によるパフォーマンスを鑑賞するうち、古典芸能の美しさが少しずつ分かるようになったと思います。同じ曲でも、流派や演奏家によって解釈や表現のしかたが異なり、聞き比べも楽しいです。

沖縄の伝統行事を体験

沖縄の伝統行事は、旧暦の祝日に合わせて開催するものが多いです。端午節にはハーリー、旧暦7月13日～15日の旧盆（16日までの地域もある）にはエイサーの練り歩き「道じゅねー」、中秋節の頃には大綱引きがあります。旧正月には、スーパーでも祝いのオードブルなどが売られています。台湾と沖縄には似ている慣習が多いと実感しました。

ハーリー

6月、恩納村出身のリナさんに誘っていただき、県費留学生たちと一緒に前兼久ハーリーに出ました。ハーリーの前に行く神事を見学し、試合に出ました。全員初心者なので初戦敗退になりましたが、いい思い出になりました。ハーリー試合後、嘉納昌吉さんのライブがありました。大好きな曲『花』が聞けて、地元の観客とカチャーシーを楽しく踊ったりして、最高の1日を過ごしました。



南城市大城区のアミシ綱曳、シタク綱曳

毎週お稽古で通っている南城市大城区は、人々の繋がりが強く、伝統行事が大切に守られているところです。私は、大城先生に誘っていただき、8月7日開催のアミシ綱曳を観に行きました。東（あがり）と西（いり）の鮮やかなトール（旗頭）、銅鑼や太鼓の音が印象深かったです。にぎやかな行進に参加したり、綱を曳いたりして、楽しかったです。

ありがたいことに、同じ三線研究所に通っている莉由さんに誘われ、9月16日開催のシタク綱曳にも参加しました。シタク綱曳は、50周年を迎えた、10年1度の大イベントです。私は地元のおばさんたちと一緒に女踊りの曲「わかりていー」を歌ったり、大城青年会の若者たちとエイサーを披露したりしました。エイサーの手踊りを学ぶために、本番までに週2・3回大城での練習に参加し、青年会の方々に振りを教えてもらいました。地域で継いできた芸能を学べるという貴重な機会をいただき、本当に嬉しかったです。エイサーを練習している間、大城の方々と仲良くなりました。一生忘れない思い出です。



研修・旅行

財団が様々な研修を計画してくださいました。もっとも印象深いのは、平和学習研修と伊江島民泊研修です。

6月23日、慰霊の日に、平和祈念公園に行き、平和祈念資料館を参観して、全戦没者追悼式典で参列しました。午後は南風原文化センターに移動し、ワークショップを通して県費留学生たち、スタッフさんと意見交換をしました。沖縄戦や沖縄における米軍基地の現状についていっぱい勉強して、どうやって平和を守っていくかについて考えました。台湾の友達にも、沖縄の歴史を伝えたいと強く思います。

9月には、伊江島民泊研修に行きました。内間さんの家で2泊お邪魔して、大変お世話になりました。湧出やニヤティヤ洞、城山などを巡ったり、ドラゴンボートに乗ったり、ピーナッツの殻剥きの手伝いをしたりしました。内間さんから、伊江島での生活など、面白い話を聞きました。夜は花札のルールを教えていただき、一緒に遊びました。地元の方々と知り合って交流することは、普通の観光ではなかなかできないことです。本当に楽しかったです。いつかまた伊江島に行って、内間ファミリーと会いたいと思います。

もう一つ楽しかった旅行は、沖縄人の友達の利恵さんと県費留学生のダイアナさん、何さんと一緒に伊平屋島ムーンライトマラソンに参加した旅です。島の美しい景色を楽しみながら、ハーフマラソンを完走しました。前夜祭と後夜祭では、伊平屋島の特産物であるもずくそばと牛汁を美味しくいただきました。人生初のマラソン、仲間といい思い出を作りました。



ウチナー・ファミリー

「沖縄に来て、南米の友達をたくさん作りました！」

不思議に聞こえるかもしれませんが、研修生活はまさにそうでした。沖縄に来る前に、南米に対してはぼんやりしたイメージしか持っていませんでした。でも、この一年間、県費留学生の皆さんとお話したり、遊んだりして、ペルー、ブラジル、アルゼンチン、ボリビアの話、南米のウチナーンチュ社会のことをたくさん聞きました。また、移民の

日のイベント、世界ウチナーンチュ学生サミットに参加したとき、沖縄がこんなにたくさんの世界中の人々を繋げていることを実感しました。県費留学生を始め、沖縄で出会ったウチナーンチュと友達になって、そして彼らの友達とも繋いで、自分のウチナー・ネットワークをどんどん広めていきたいと思います。



2019年1月に、沖縄NGOセンターの協力を得て、県費留学生で「ゆんたくひんたく」という交流イベントを開きました。ゲームを遊んだり、自分の出身国を紹介したり、県民と意見交換したりして、とても楽しかったです。「沖縄について、外国人にどんなことを知ってほしいですか」という私の質問に対して、「やっぱり歴史。悲しい話もあるけど、沖縄の歴史を知ってほしい」という意見をいただきました。研修が終わった後、どんな活動をすべきかと考えている私に、ヒントを与えてくれた気がしました。準備期間が短かったものの、県費留学生の皆さんで力を合わせてイベントを成功させました。



これから…

三線製作も、歌三線も、学べば学ぶほど面白さを感じて、1年間の研修が終わっても沖縄で続けたいと思い始めました。それで就職活動をして、2019年4月から沖縄の旅行会社に入社することが決まりました。これからも三線の勉強を続けながら、沖縄の魅力をもっと発見・発信していきたいと思います。そして、この1年間で築いたウチナー・ネットワークを大切にしたいと思います。いつか県費留学生の皆さんの国に行きたいです。

この貴重な1年間をくださった沖縄県、沖縄県国際交流・人材育成財団に、心からお礼申し上げます。私を受入れてくださった沖縄県三線製作事業協同組合、三線工房「いーばる」の上原先生にも、感謝しております。このかけがえのない経験を、一生の宝物にします。

イチャリバチヨーデーの経験

照屋ブルーノヒトシ（ブラジル）
やふそ紅型工房

沖縄に戻りたい

2015年、私は那覇市の研修生でした。二ヶ月間で沖縄の文化を勉強するために沖縄にきました。短い間でしたから、もっと沢山のことを学びたいと思い、私は沖縄に戻り、より長く滞在する必要があると感じていました。私は県費留学生として、もう一度沖縄に戻る機会を得たので、今回は日本語と紅型を1年間勉強することを目標にしました。

ICLC – 国際言語文化 センター



最初の三ヶ月間は、私とアルゼンチンからの県費留学生の赤嶺いづみは、ICLC-国際言語文化 センターで日本語を勉強しました。授業が始まったとき、私は日本語があまり理解できなかったので少し苦労しました。毎日漢字テストがあり、最初はとても大変でした。しかし、漢字の勉強の仕方を理解した後、私はなんとか漢字テストで良い点を得ることができました。

教授と事務職員はとても親切でいつも助けてくれて、私はすぐに慣れました。学校の初日に私はネパールから来た女の子の隣に座っていました。彼女の名前はスシラです。そして、彼女はまたとても親切で、困った時、私のことを助けてくれました。

いづみの同級生も仲良くなりました。彼の名前はホールヘです、彼はメキシコ出身です。ホールヘは本当に日本語を勉強するのが好きです。私が日本語について疑問を抱いているとき、彼は私を助けてくれました。

私たちの授業は光先生が担当しました。彼は若かったけれども、時には厳しく、時には面白い先生でした。彼が先生でも嬉しかったです。



学校で私達はまた佐久本義生さんに会いました、彼はオフィスで働いています、そして彼はスペイン語で話すことができるから、私といづみに多くのサポートを与えました。私たちはとても親しい友人になりました。

ICLCの理事長の金城デアさんも親切でいつも笑顔で私たちを迎えてくれて、大丈夫かと気にかけてくれました。私たちの卒業後、彼女は私たちを昼食に招待し、私たちは楽しく会話をしました。

やふそ紅型工房

七月からやふそ紅型工房で研修を始めました。研修を始める前は、自分の日本語レベルが仕事場でのコミュニケーションに十分であるかどうか心配でした。仕事を始めた後、私は実際には私の日本語レベルでは十分ではないことに気がきました。普段は日本語でコミュニケーションをとることができましたが、仕事で話す単語は紅型専門の言葉でした。例えば、道具の名前とか色の名前とか紅型のステップの名前など、覚えることが難しかったです。覚えるためにメモをしなければなりませんでした。



やふそ紅型工房で屋富祖幸子先生と4人の工房のメンバーも会いました。4人の工房のメンバーはまえざとあやこさん、屋富祖えりさん、とうまあいさんとやましろあかねさんでした。屋富祖先生が硬かったのが、最初は少し怖かったです。しかし、時間が経つにつれて私はなぜ先生がとても尊敬されているのかを実感しました。

私は先生が働いている時に観察するだけで、たくさんのことを学ぶことができました。例えば、デザインの考え方とか型置きのやり方とかどのようにワークプロセスを管理するのかなどです。

屋富祖先生、まえざとさん、えりさん、とうまさんとやましろさんにも色々な紅型のことを教えてもらいました。みんないつも忙しい中、私の質問に答えてくれて、私を助けてくれました。

紅型のすべてのプロセスを学ぶことができたことで、紅型の素晴らしさを実感できました。最初は、今まで仕事でデザインを描いていたので、紅型商品を作るのは簡単だと思いました。でも、それから私はデザインを作成する方法と色を使う方法が私はこれまでに学んだことと異なることに気がきました。工房には紅型本や伝統美術の本がたくさんありましたから、たくさんの参考文献を見ることができました。



私は自分のデザインを作成するために、花についても勉強しなければなりませんでした。時々私は花や植物をスケッチするために工房を出ることができました。自分のデザインを作成し、Tシャツ、テーブルセンター、タペストリー、コースターなどの製品に適用する機会がありました。

研修プログラム



研修期間中、私達は様々な活動に参加することができました。例えば、金武町と平和通りで町歩きをし、その2つの場所の歴史を学びました。平和記念公園で博物館を訪問し、慰霊の日の式典を見ました。その日平和についてよく考えました。

伊江島で3日間民泊の経験をしました。その3日間知念家族は伊江島の歴史や習慣を教えてくださいました。

名桜大学で行われた、第4回世界ウチナーンチュ学生サミットにも参加しました。そのイベントで私は沖縄の若者達と出会い、他の国のウチナーンチュとの関係強化に興味を持ってくれたからとても嬉しかったです。

また、文化研修で、琉球漆器コースターの体験もしました。みんなコースターにハイビスカスの図案を作りました。琉球漆器の技術の紅型の型紙の作り方が似ているので、綺麗なコースターを作ることができました。

京都研修にも行き、京都の有名な場所を訪れ、日本の歴史と文化について学ぶことができました。私は行ったことない多くの場所へ行きました。ツアーではガイドの方が各場所の歴史を説明してくれたので、新しいことを知ることができました。

人との繋がり



私は沖縄で多くの経験をし、学ぶことと楽しむことの両方を経験しましたが、私にとって最も印象に残ったのは人とのつながりでした。沖縄でたくさんの経験をしましたので、私はたくさんの人と出会い、新しい友達を作りました。私はすでに知っていた友達とも会うこともできました。これらの経験の中には、日本語サークル、玉木里奈さんが招いたイベント、一万人エイサーの練習などがありました。

ブラジルの家族と沖縄の親戚を結ぶ絆



ブラジルと沖縄はとても遠いからです、家族と会えたことは本当に特別な経験です。私は沖縄に来たので、ブラジルの家族と沖縄の家族の絆を強きました。ブラジルの家族と沖縄の親戚繋がるように、私はこの絆をいつまでも守りたいです。

私たちは沖縄で兄弟になりました



ブラジル、アルゼンチン、ペルー、ボリビア、台湾、そして中国からの 12 人が沖縄にて出会ったことは決して忘れない経験です。私たちは異なる習慣を持ち、異なる言語を話しますが、沖縄で同じ時を過ごすことになりました。

一年前は見知らぬ人だったが、一年後、私たちは友達になり、そして兄弟になりました。長い間会うことができなくて、距離が遠くても、関係ありません。これからもずっと、私たちは兄弟です。

出会いの一年

赤嶺 イツミ（アルゼンチン）
松本料理学院

私の名前は赤嶺イツミです。アルゼンチン出身日系2世です。アルゼンチンの県人会のレストランで仕事をしていた、自分の腕をみがきたいという思いでこのプログラムを勧められて、応募しました。

家族 親戚

私のおじいちゃんの弟夫婦と8年ぶりに再会しました。私を孫のように可愛がってもらい本当に嬉しかったです。沖縄にいる親戚が多くて、遊びに行くたびにカメーカメーこうげきが始まり、きづくと沖縄に来て3キロ太ってしまいました。。。笑笑笑

おばさんに誘われ、沖縄の伝統的なセレモニーにも参加しました。さんぐわチーとシーミー。アルゼンチンでは、お墓参りの習慣がないので、いい体験になりました。

おじいちゃんに学院で作ったカレンダーをプレゼントしたら、嬉しそうに見てくれました。それがきっかけになって、戦前の食の貴重な話を聞く事が出来て良かったです。

親戚のおばさんからも宇栄原のターム天ぷらの作り方を教えてもらいました。ぜひアルゼンチンで復活させたいという思いが強くてそのレシピをもらいました。

初日から家族の一員のように接してもらって、沖縄の家庭の暖かさを感じ、この一年間寂しいと思うことはありませんでした。



去年は兄弟3人沖縄で会うという、私の一つの夢が叶いました。

お姉さんは沖縄に来るのが初めてで、何もかもが新しい発見でした。お姉さんの楽しそうな姿を見て私も嬉しくなりました。

日本語学校 ICLC

最初の三ヶ月間は国際言語文化センターで日本語の勉強をしました。クラスの中で、様々な国の学生に出会えて、お互いの国の文化を学ぶ事が出来ました。皆さんは、色んな目標を持って学校に通っていました。就職をしたい、専門学校や大学に入りたい、自分の国に帰って通訳として働きたい、沖縄の文化に興味があってもっと知りたいなどを聞き、みんなの頑張っている姿を見て、勇気をもらいました。

先生達が一つ一つの授業を一生懸命作っている事が強く伝わりました。学校だけではなく、生活のサポートもしてくれて、学生に対しての愛情を感じました。先生達とクラスメイトのおかげで楽しい時間を過ごせました。

12月に日本語能力試験を受けました。驚いたことに、無事に合格しました。

沖縄に来る前の一つの目標だったので、達成出来て、嬉しいです。



ブラジルの県費留学生照屋ひとしさんと金城デリア校長先生。修了式の日。

料理研修

7月から松本料理学院で研修が始まりました。授業は二つに別れていて、家庭料理は、がなは理恵子先生が担当でした。

家庭料理では、沖縄の旬の食材を利用して、和食、洋食、中華、お菓子などを作りました。

がなは先生は、レシピのレパートリーが多く、一つ一つの授業を生徒がやりやすく出来るように一生懸命レシピを作り、教えてくれました。

夏休みには、子供クッキングの講習会がありました。初めて子供達と料理をしました。一つのグループを担当させてもらい、子どもたちが、手を切ったりしたら大変と思えずごく緊張しましたが、なに事もなく終わり、良い経験になりました。



夏休み子どもクッキングの講習会で、助手のデビューをしました。

沖縄に来る前、琉球料理といえばイリチー、ゴーヤーチャンプル、沖縄そば、サーターアンダギーの存在しか知りませんでした。しかし研修を始めて、私が思ったより今も残っている琉球料理のレパートリーが多くて驚きました。

松本先生は、授業で料理のデモンストレーションだけではなく、材料の特徴、良さ、選び方、調理法などを説明しながら教えてくれました。初めて見たり、使ったり、食べたりした食材が多く、久しぶりに新しい料理を食べられる事が面白く、毎回次のクラスを待ちきれないぐらい楽しみでした。

松本先生は素晴らしい方で、琉球料理がだんだんなくなっていると気づき研究されています。数年前から長年の経験をいかして、色んなところでセミナーや講習会も開いています。

周りのスタッフや生徒の皆さんも、琉球料理に対して同じ熱い思いを持っていると気づき、感動しました。あらためて沖縄の食文化の大切さを感じる事が出来ました。

たった8ヶ月の短い間でしたが、教室で週3回同じレシピを繰り返して、私の中で自信につながり、アルゼンチンで琉球料理を広めたいという気持ちがさらに強くなりました。アルゼンチンでは、沖縄県で生産する食材が手に入らないのが残念ですが、それぞれのレシピをどのようにアレンジできるのか楽しみです。



琉球新報お正月料理の講習会



タイムスお正月料理の講習会



クワンソウの畑に見学を連れてってもらいました。

今帰仁で行われた講習会です。地元の方がものすごく親切でした。アグー豚はとても美味しかったです。



研修の最後の日にはアルゼンチン料理教室をやりました。
人の前で喋るのが苦手ですごく緊張しましたが、生徒の皆さんが暖かく見守ってくれて、アルゼンチンの食文化を分かち合う事ができました。それに、素敵な助手さんがそばいてくれたので無事に終わることが出来ました。

松本料理学院の皆さん、短い間でしたが、お世話になりました。想像していた以上に多くの事を学ぶことができ、そして優しく出迎えてくれて本当に感謝しています。

沖縄の出会い

この一年間は出会いの年でした。他の県費留学生、出会った素敵な方々のおかげで最高の一年になりました。初めて会った方が、何かあったら連絡してね~と言う声をかけてくれて、ウチナーンチュの暖かさを感じ、その時イチャリバチョーデーの意味を実感しました。そして自分がウチナーンチュの1人である事を誇りに思っています。



平成30年度 ウチナーンチュ子弟等留学生 修了報告書

沖縄県

発行年月：平成31年 3月

受託者 公益財団法人 沖縄県国際交流・人材育成財団

